



## 資料紹介

# 家族への想い——山田春之介家往復書簡——

昭和館学芸部

はじめに

今回紹介する史料は、山田二郎氏（以下敬称略）より平成十六年（二〇〇四）九月及び十七年一月に寄贈されたものである。総点数八一〇点にも及ぶ史料群は山田の母親津多が死亡し、その遺品の整理中に発見されたものである。その内容は父親春之介が東京商科大学（現・一橋大学）商学専門部入学に関する書類などや、春之介の出征に関する書類、貯金通帳や津多に郵政事務官を命じる辞令など多岐に渡っている。

特に注目されるのが、春之介の出征及び戦没に関する書類で、春之介の召集を告げる電報や家族などとの間で交わされた手紙、死亡告知書、遺骨伝達式の書類などが見られる。普通のサラリーマン一家が父親の召集により、どのような心情であったのか、またその父親の戦死によって残された家族はどのような労苦をしてきたかがわかる史料群である。

これらの史料はこれまで常設展示室及び特別企画展に一部を展示してきたが、本稿ではこの史料群の中から、春之介とその家族、親類の間で交わされた手紙約七〇〇点の内、春之介が昭和十九年（一九四四）三月

に教育召集で入隊した時から、出征し戦地から津多や子ども達宛に届いた手紙八四点を翻刻し、紹介する。これらの資料は大きく二つに分類することができる。一つ目が昭和十九年三月十四日に教育召集で入隊した時から六月十日に除隊し、再召集されるまでの手紙群（翻刻資料1から50、58）で、二つ目が七月八日に再召集されるからの手紙群（翻刻資料51から57、59から84）である。一つ目は春之介が会津若松においての教育召集であったため除隊後に春之介が持ち帰り、家族の間での往復書簡として保存されていた。二つ目は春之介から家族宛の戦地からの手紙であり、残念ながら戦地への手紙は残存してはいない。いずれもお互いの体を気遣い、子どもの発育を心配する心情が綴られている。掲載にあたっては館内の資料番号とは別に消印などから日付順に整理を行った（表① 史料一覧参照）。

## 山田春之介の略歴

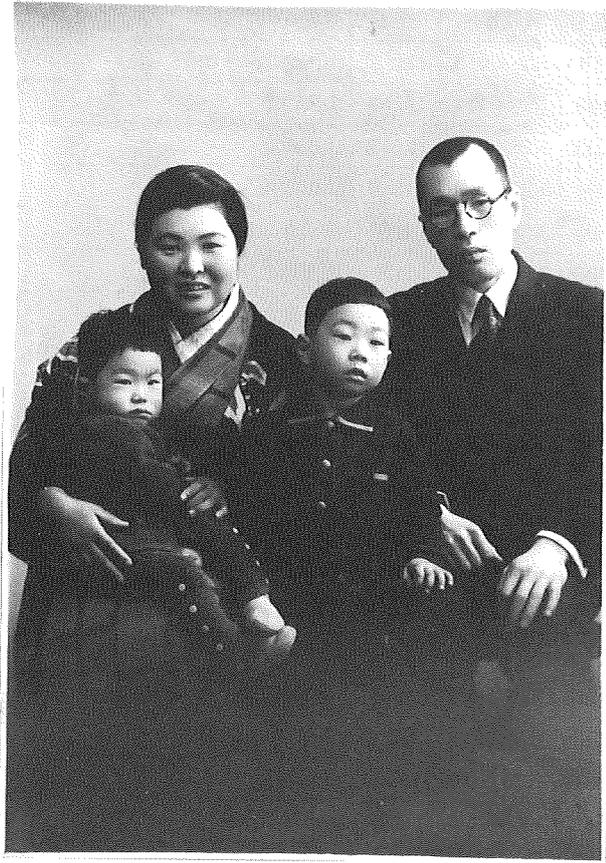
山田春之介は明治四十二年（一九〇九）に京都市上京区で山田三郎、雪の三男として生まれた。昭和六年（一九三一）東京商科大学（現・一

番号	資料番号	分類	宛名	差出人	日付	備考
43	K28-0099	封書	山田春之介	山田津多	19. 5.25 (消印)	絵 4 枚
44	K28-0042	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5.29 (消印)	検閲済
45	K28-0043	はがき	山田津多	山田春之介	19. 6. 2 (消印)	検閲済
46	K28-0044	はがき	山田津多	山田春之介	19. 6. 2 (消印)	検閲済
47	K28-0045	はがき	山田健之介・山田二郎	山田春之介	19. 6. 2 (消印)	検閲済
48	K28-0046	はがき	山田津多	山田春之介	19. 6. 6 (消印)	検閲済
49	K28-0047	はがき	山田津多	山田春之介	19. 6.11 (消印)	検閲済
50	K28-0050	はがき	山田津多	山田春之介	19. 7. 4 (消印)	
51	K28-0084	封書	山田津多	山田春之介	19. 7.13 (消印)	
52	K28-0053	はがき	山田津多	山田春之介	19. 7.14 (消印)	
53	K28-0052	はがき	山田津多	山田春之介	19. 7.14 (消印)	
54	K28-0054	はがき	山田津多	山田春之介	19. 7.19 (消印)	検閲済
55	K28-0056	はがき	山田津多	山田春之介	20. 3.10 (本文中)	検閲済、検閲箇所あり
56	K28-0055	はがき	山田津多	山田春之介	20. 3.10 (本文中)	検閲済、検閲箇所あり
57	K28-0057	はがき	山田津多	山田春之介	20. 5.15 (本文中)	検閲済
58	K28-0048	はがき	-	-		
59	K28-0071	はがき	山田津多	山田春之介		検閲済
60	K28-0060	はがき	山田健之介	山田春之介		検閲済
61	K28-0058	はがき	山田津多	山田春之介		検閲済
62	K28-0068	はがき	山田津多	山田春之介		検閲済、検閲箇所あり
63	K28-0078	はがき	山田健之介	山田春之介		検閲済
64	K28-0064	はがき	山田津多	山田春之介		検閲済
65	K28-0066	はがき	山田津多	山田春之介		検閲済
66	K28-0067	はがき	山田津多	山田春之介		検閲済、検閲箇所あり
67	K28-0072	はがき	山田津多	山田春之介		検閲済
68	K28-0083	はがき	山田津多	山田春之介		検閲済
69	K28-0073	はがき	山田健之介・山田二郎	山田春之介		検閲済
70	K28-0063	はがき	山田健之介	山田春之介		検閲済
71	K28-0059	はがき	山田二郎	山田春之介		検閲済
72	K28-0075	はがき	山田二郎・山田健之介	山田春之介		検閲済
73	K28-0080	はがき	山田健之介	山田春之介		検閲済
74	K28-0065	はがき	山田津多子	山田春之介		検閲済、検閲箇所あり
75	K28-0082	はがき	山田健之介	山田春之介		検閲済
76	K28-0079	はがき	山田二郎	山田春之介		検閲済
77	K28-0081	はがき	山田二郎	山田春之介		検閲済
78	K28-0069	はがき	山田津多	山田春之介		検閲済
79	K28-0061	はがき	山田健之介	山田春之介		検閲済
80	K28-0062	はがき	山田二郎	山田春之介		検閲済
81	K28-0077	はがき	山田健之介	山田春之介		検閲済
82	K28-0070	はがき	山田健之介	山田春之介		検閲済
83	K28-0076	はがき	山田二郎	山田春之介		検閲済
84	K28-0074	はがき	山田津多	山田春之介		検閲済

家族への想い——山田春之介家往復書簡——

番号	資料番号	分類	宛名	差出人	日付	備考
01	K28-0013	はがき	山田健之介・山田二郎	山田春之介	19. 3.17 (消印)	
02	K28-0014	はがき	山田津多	山田春之介	19. 3.17 (消印)	
03	K28-0015	はがき	山田津多	山田春之介	19. 3.17 (消印)	
04	K28-0016	はがき	山田津多	山田春之介	19. 3.23 (消印)	検閲済
05	K28-0092	封書	山田春之介	山田津多	19. 3.27 (消印)	
06	K28-0093	封書	山田春之介	山田津多	19. 3.29 (消印)	
07	K28-0017	はがき	山田健之介・山田二郎	山田春之介	19. 3. □ (消印)	検閲済
08	K28-0085	はがき	山田春之介	山田津多	19. 4. 1 (消印)	
09	K28-0094	封書	山田春之介	山田津多	19. 4. 3 (消印)	
10	K28-0019	はがき	山田津多	山田春之介	19. 4. 3 (消印)	検閲済
11	K28-0020	はがき	山田津多・山田健之介・山田二郎	山田春之介	19. 4. 4 (消印)	検閲済
12	K28-0088	はがき	山田春之介	山田津多	19. 4. 7 (消印)	
13	K28-0087	はがき	山田春之介	山田津多	19. 4. 7 (消印)	
14	K28-0086	はがき	山田春之介	山田津多	19. 4. 7 (消印)	
15	K28-0021	はがき	山田津多	山田春之介	19. 4.11 (消印)	検閲済、検閲箇所あり
16	K28-0095	封書	山田春之介	山田津多	19. 4.16 (消印)	絵 5 枚
17	K28-0022	はがき	山田健之介・山田二郎	山田春之介	19. 4.17 (消印)	検閲済
18	K28-0023	はがき	山田津多	山田春之介	19. 4.17 (消印)	検閲済
19	K28-0096	封書	山田春之介	山田津多	19. 4.22 (消印)	
20	K28-0024	はがき	山田津多	山田春之介	19. 4.24 (消印)	検閲済
21	K28-0089	はがき	山田春之介	山田津多	19. 4.26 (消印)	
22	K28-0025	はがき	山田津多	山田春之介	19. 4.26 (消印)	検閲済
23	K28-0026	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5. 1 (消印)	検閲済
24	K28-0027	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5. 1 (消印)	検閲済
25	K28-0098	封書	山田春之介	山田津多	19. 5. 1 (消印)	折紙 2 枚
26	K28-0097	封書	山田春之介	山田津多	19. 5. 5 (消印)	
27	K28-0028	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5. 6 (消印)	検閲済
28	K28-0029	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5. 9 (消印)	検閲済
29	K28-0030	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5. 9 (消印)	検閲済
30	K28-0090	はがき	山田春之介	山田津多	19. 5.10 (消印)	
31	K28-0091	はがき	山田春之介	山田津多	19. 5.10 (消印)	
32	K28-0031	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5.12 (消印)	検閲済
33	K28-0032	はがき	山田健之介・山田二郎	山田春之介	19. 5.13 (消印)	検閲済
34	K28-0033	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5.16 (消印)	検閲済
35	K28-0034	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5.16 (消印)	検閲済
36	K28-0035	はがき	山田健之介	山田春之介	19. 5.19 (消印)	検閲済
37	K28-0036	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5.19 (消印)	検閲済
38	K28-0037	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5.19 (消印)	検閲済
39	K28-0038	はがき	山田二郎	山田春之介	19. 5.21 (消印)	検閲済
40	K28-0039	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5.23 (消印)	検閲済
41	K28-0040	はがき	山田健之介・山田二郎	山田春之介	19. 5.24 (消印)	検閲済
42	K28-0041	はがき	山田津多	山田春之介	19. 5.25 (消印)	検閲済

表① 史料一覧



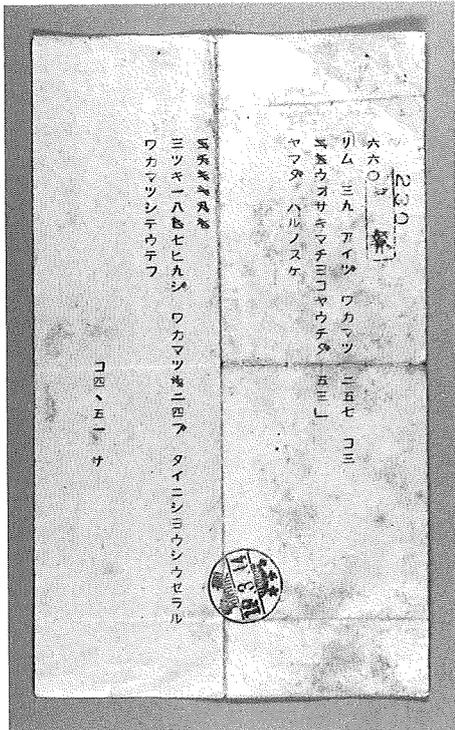
史料① 写真 K28-0704

橋大学) 商学専門部に入学し、九年卒業した。卒業後は日満倉庫株式会社(現・東洋埠頭株式会社)に入社した。当初は川崎埠頭事務所庶務係、大阪埠頭事務所庶務係となった。十二年には桑山津多と結婚し、翌年には長男健之介が、十六年には次男二郎が誕生している。ここまで見ていくと、子ども二人を抱えた普通のサラリーマン一家であった(表②) 春之介の年譜、史料① 写真 K28-0704)。

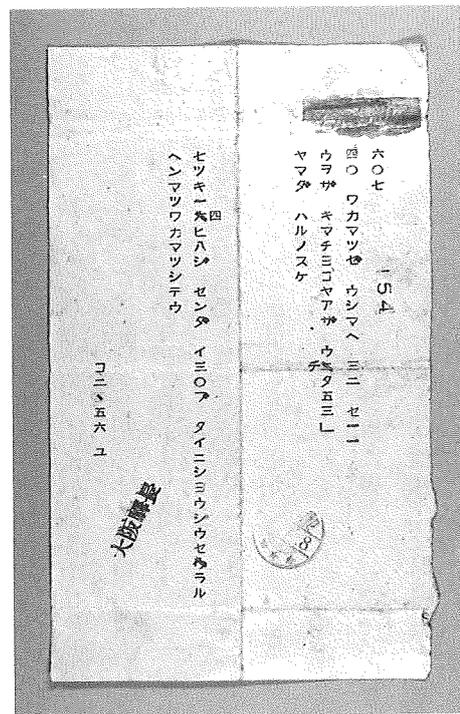
ところが十九年三月十四日、一通の電報(史料②) 電報 K28-0714) が届く。春之介の本籍地である福島県若松市長から召集を告げる電報であった。当時春之介三十五歳。六年に陸軍の第一補充兵役として編入され、数度の簡閲点呼を受けていたが初めての召集であった。すぐに到着地である会津若松に向かったところ、八五日間の教育召集であった。教

表② 春之介の年譜

年	月	日	事象
明治四十二年	二月	二十八日	京都市上京区で三郎・雪の三男として誕生
昭和	六年	三月	府立第三中学校卒業
			京都高等蚕業学校製糸科入学合格
			東京商科大学(現・二橋大学) 商学専門部合格
			商学専門部卒業
九年	三月	二十八日	日満倉庫(現・東洋埠頭)に入社、川崎埠頭事務所埠頭係
	四月	十六日	川崎埠頭事務所庶務係
	六月	一日	大阪埠頭事務所庶務係
十年	三月	二十日	桑山津多と結婚
十二年	四月	二十五日	大阪埠頭事務所会計係
十三年	四月	十五日	長男健之介誕生
	八月	十五日	大阪埠頭事務所庶務係
十五年	四月	一日	次男二郎誕生
十六年	七月	三日	召集(教育召集)の電報受信
十九年	三月	十四日	東部第二十四部隊小林直隊入隊
		十八日	津多の実家へ疎開するために一家出発し、油木到着
		二十三日	除隊
	六月	十日	油木到着
	六月	十二日	長女和子誕生、臨時召集の電報受信
	七月	八日	東部第三〇部隊入隊
	七月	十四日	屯営出発
	七月	二十日	博多港出帆
	七月	二十二日	蘇州着
	八月	二日	呉淞港出帆
	十月	二十二日	広東着
	十二月	三十一日	戦争栄養失調症発病
二十年	八月	二十日	死亡
	十一月	五日	戦没者内報届く
二十一年	五月	三十一日	死亡通知書告知書届く
	七月	五日	遺骨、その他の遺留品は未帰還のまま油木にて葬儀
	十一月	五日	遺骨伝達式を執行
二十二年	五月	十五日	



史料② 電報 K28-0714



史料③ 電報 K28-0716

### 山田春之介の召集

召集は通常軍から召集が発令されると、召集令状が連隊司令部によって作成される。それを市町村の兵事係などの職員によって、直接召集される本人（応召者）もしくは家族に手渡される。その際召集令状の右辺にある受領書に、受領した日時を記入捺印し、切り取って職員に提出した。応召者は召集令状に記入された日時までに、記入された到着地の召集部隊に入隊するのである。応召者が入隊する際に利用する交通機関は、

育召集解除後は再び会社に出社するなど平穏な日が続き、七月八日に長女和子が誕生した。ところが、喜びあふれる一家のもとへ再度電報が届く（史料③ 電報 K28-0716）。若松市長から召集を告げる電報であった。長女誕生という喜びもつかのま、別れもそこそこにあわてて仙台に向かい、入隊した。すぐに中国大陸へ送られ、各地を転戦した。終戦を迎えた直後の二十年八月二十日に栄養失調症を発病し、十一月五日死亡した。

召集令状の左辺の応召員旅客運賃後払証に記入されていた。春之介は二度召集令状を受けとっている。一度目の召集は、本籍地から離れた兵庫県武庫郡魚崎町（現・神戸市東灘区）に住居を構えていた時のことである。昭和十九年（一九四四）三月十四日十六時五十一分に福島県若松市長から

三ツキ一八七ヒ九ジ ワカマツ二四ブ タイニシヨウシウ セラル  
ワカマツシテウテフ

という内容の電報で召集を告げられた。三月十四日は火曜日であったので津多が電報を受け取り、あわてて会社にいる春之介に連絡したことが想像できる。翻刻資料2、3に出発してからの様子が詳しく書かれている。それによると、三月十五日に出発予定だったが、指定されていた東海道線が列車事故をおこし、全線不通となってしまった。そのため、他の経路を探していたところ、二十二時三十分大阪発東京行の急行列車のみ一本が応召者だけを乗せて出発した。翌日十三時三十分横浜に到着した。十五時間の長旅で、その間身動きもとれないまま立ちっぱなしであった。横浜には春之介の姉なみの婚家（山成）があつたためここに立ち寄り、二時間ほど仮眠し夕食をとった後、二十二時四十分上野発の列車に乗り、翌十七日七時三十分会津若松

に到着した。すぐに市役所に召集令状を受け取りに行き、ここで初めて八五日間の教育召集であったことが判明した。

翌十八日東部第二十四部隊小林直隊に通信兵として入隊した。十四日に召集の電報を受けて十八日に入隊するまで四日間というあわたましい入隊であった。

教育召集とは『帝国陸海軍事典』によると、

軍隊でいまだ教育を受けない第一補充兵を教育のため召集することをいい、陸軍に限り行われている。(中略)期間は法律上一二〇日以内となつてゐるが、実際に行われているのは九〇日とある。

春之介は召集を告げる電報を受け取るとすぐに、魚崎を引き払い、妊娠中の津多と二人の幼い子ども達を津多の実家である広島県神石郡油木町(現・神石高原町油木)の桑山家に疎開させることにした。十五日に引越しの手伝いで津多の母親桑山文枝らが到着し、荷造りに取りかかった。後から荷物が届くように手配し、二十三日に魚崎を出発した。その日の内に油木へ到着し、桑山家に入った。四月九日には七十五個の荷物が到着。二間の小さい家が空いたので、十二、十三日頃に引越した。

教育召集解除後、春之介は六月十二日に家族の待つ油木のこの家に帰還した。その後七月三日に出社するために大阪へ向かい、社宅に入るこゝになつた。

二度目の召集は除隊直後の七月八日十四時五十六分に再び若松市長から電報が届いた。

七ツキ一四七八ジ センダ イ三〇ブ タイニシヨウシウセラル  
ヘンマツワカマツシテウ

この電報は以前春之介一家が居住していた魚崎町の住所宛で発信された

が、転居先である油木へ届けられた。この日は丁度長女和子が誕生した日でもあつたので、春之介をはじめ家族親類が集まり喜びにわきかえる家族の元に、召集を知らせる電報が届いた。祝いもそこに春之介は仙台に向けて出発するのである。その詳細は翻刻資料51、52に詳しく書かれている。これによると、十日七時に油木をバスで出発し、福山へ向かつた。十時四十六分福山発東京行に乗り、十七時三十分大阪に到着した。社宅に戻つて荷物をまとめ、油木へ送る手配をし、二十二時三十分大阪発東京行の列車に乗つた。翌日十時に横浜に到着し、再び親類の山成宅に向かつた。午後は東京の日満倉庫本社に挨拶に立ち寄り、この日は山成宅に泊まつた。十二日二十時上野発仙台行の列車に乗り、翌日五時頃仙台に到着した。召集令状は若松市役所が魚崎へ送つてしまつていたため受け取れず、春之介は津多に直接部隊へ転送するようにと手紙を出している。

応召の様子が描かれた資料は、後年の手記や体験記で多々見ることはあるが、当時のあわただしく出発していく様子をそのまま伝えた資料は少なく、大変貴重な資料である。

## 検 閲

出征した春之介から家族にあてて届けられる手紙には、検閲が行われた印である検閲印が押されている。検閲とは「調べあらためること。特に、出版物・映画などの内容を公権力が審査し、不適當と認める時はその発表などを禁止する行為」<sup>②</sup>を指し、その根拠としては、昭和十八年(一九四三)に制定された『軍隊内務令』第一六章郵便物及電報取扱にある

総テ信書ハ秘密ヲ守ルヲ要スト雖モ軍ノ紀律ヲ維持スル為必要ト思

料スル場合ニ於テハ所属隊長ハ之ヲ開披スルコトヲ得  
 がある。

また、十八年七月に作成された「軍事警察勤務教程」<sup>3</sup>によると、通信  
 取締は、『支那派遣軍防諜規定』『支那派遣軍郵便検閲班服務規程』『同  
 郵便電報検閲実施要領並支那派遣憲兵隊郵便電報検閲実施要領』など  
 を根拠として、「支那郵便局ニ発信シ又ハ通過スル郵便物」や「野戦郵  
 便局ニ於ケル軍人軍属ノ発受スル私用郵便物」などが検閲対象となつた。  
 その目的は「野戦郵便局ニ於ケル検閲ハ軍人軍属ノ発信スル信書ニ対シ、  
 軍機保護防諜ヲ主眼トシ、併セテ軍紀風紀思想其他軍事上有害ナル事項  
 ヲ警防スル」ためとしている。

具体的な検閲内容を示した史料として「郵便検閲月報（八月）」<sup>4</sup>があ  
 られる。この史料は十七年九月三十日に作成され、北支那派遣憲兵隊に  
 よる郵便検閲の詳しい実態を示したものである。郵便物を一般郵便と軍  
 事郵便に分けて、それぞれ前月（七月）と本月（八月）の取扱総件数と  
 検閲件数、処置件数及びその処置件数の内訳と、処置した郵便の概況と  
 その内容を記している。

これによると、軍機事項では部隊の移動及び人員、交代帰還、警備状  
 況、作戦討伐状況、駐屯地、召集徴用状況、部隊名記載、軍需品製造状  
 況、船舶の出港名目日破損状況、飛行場軍事施設所在地などについて、  
 銃後民心前線將兵に悪影響を及ぼすものでは、戦争嫌疑、徴用召集嫌疑、  
 帰還要望、軍隊生活嫌疑、戦死状況、物資不足状況、内地の水害旱害状  
 況についての内容を掲載しているものに対して処置を行っている。処置  
 とは押収や切除抹消が行われた。

春之介から家族宛の手紙で検閲を受けたものは、表①に記載したが、  
 六九通の内六一通が検閲を受けている。特に、翻刻資料15、55、56、62、

66、74の六点は本文中の箇所が塗りつぶされる検閲を受けている。  
 春之介の手紙で受けた処置は、抹消にあたり、前後の文脈から軍機事  
 項を書いたための処置であつたことが窺える。

### 暗号文の取り決め

春之介の戦地からの手紙には剃刀という言葉が多々見られる。これは、  
 翻訳資料51に書かれているように、家族間で交わされた暗号文であつた。  
 春之介はその文中で、「軍隊に入ればもう何も書けないから今の中に書い  
 てゐます今后金の必要なる時は（恐らく要らないと思ふが）剃刀の刃を  
 送れ（一枚を拾ひとす）」と云ふ風な事といたします。」と言っている。こ  
 の時春之介はまだ入隊していなかつたので、検閲はまぬがれていた。そ  
 のため翻訳資料67、72、74、84では剃刀を送れと暗号の符丁で書かれて  
 いる。翻訳資料61では金銭ではない本当の剃刀を送るようにつづいて  
 が、暗号の符丁と区別させるのに苦労している。

なぜこのような取り決めを行ったかは不明だが、想像できることは、  
 軍人俸給が安かつたことがあげられる。『兵隊たちの陸軍史―兵営と戦場  
 生活―』<sup>5</sup>によると、

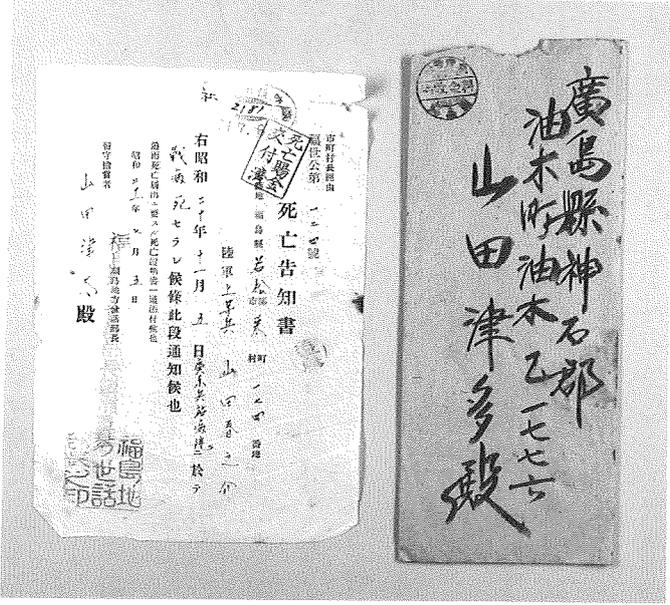
兵隊は、いくら兵隊でもそれだけでは絶対やつてゆけぬくらい、安  
 い俸給しか貰えなかつた。もつとも一期の検閲までは外出もないの  
 で金はあまり要らない。しかし酒保で飲食する費用もバカにはなら  
 ぬのである。俸給は十日目ごとに支給され、二等兵で一円二十七銭  
 （昭和十五年まで）だつた。俸給は一、二等兵は同額である。戦場に  
 赴くと、これに戦時加俸その他がつき、十日目ごとの支給額七円  
 八十銭程度であつた。

とある。これから一か月三十日として月俸を算出すると、およそ三円八一銭である。春之介の月給は翻刻資料51に記述があり、これから推察すると二九〇円程であったことがわかる。通常貰っている額に比較すると、軍からの俸給は微々たるものであったことがわかる。また、春之介は手紙の文面中で、中支の物価が高いことを嘆いている。これにも一因があると考えられる。

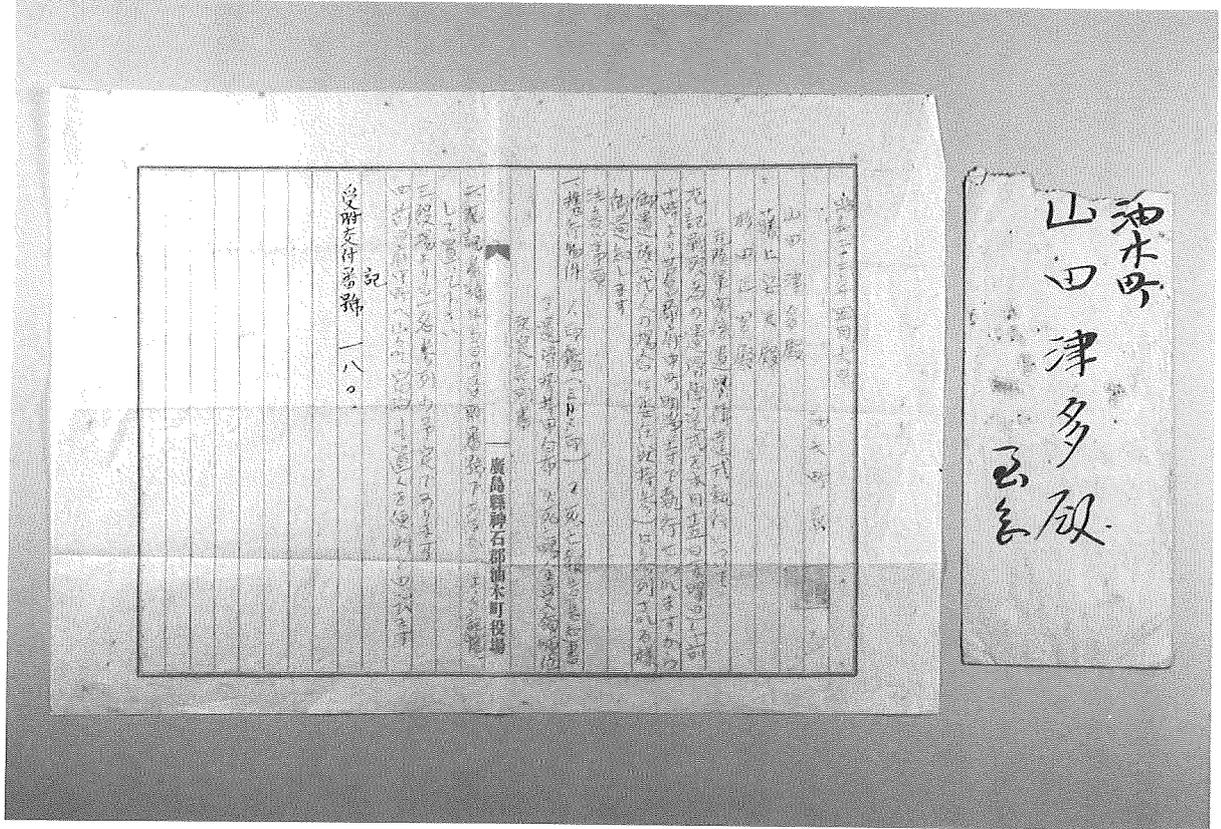
ちようど春之介一家は縁故疎開を行い、長女和子が誕生したばかりであった。しかも育ち盛りの子ども二人を抱えた津多の苦勞が偲ばれる。

死亡告知書

春之介の戦病  
 死の知らせは  
 昭和二十一年  
 (一九四六)五月  
 三十一日に戦没者  
 内報が、七月五日  
 に死亡告知書(史料④) 死亡告知書 K28-0722) が届いた。その後遺骨や遺留品が未帰還のまま春之介の葬儀が執り行われた。お棺の中には



史料④ 死亡告知書 K28-0722

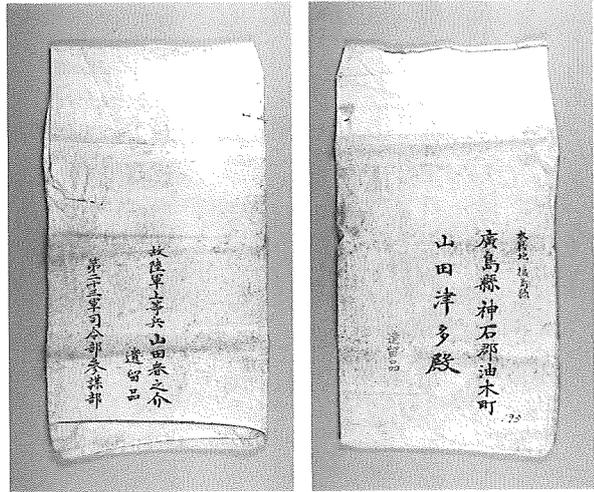


史料⑤ 元陸軍関係遺骨伝達式執行について K28-0725

その後の家族の生活

春之介一家が津多の実家のある油木に疎開した昭和十九年（一九四四）三月二十三日直後は、津多の実家と同居していた。桑山家は貸家を一軒

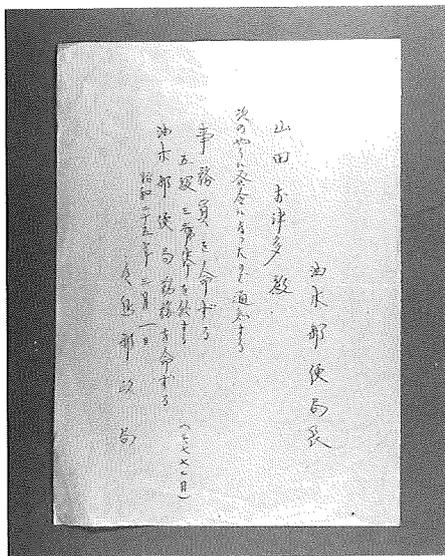
伝達式執行について（K28-0725）津多が春之介を迎えに行き、遺骨の入った木箱と春之助が身につけていた小銭入れ、眼鏡、お守りが袋に入ってきた（史料⑥ 袋 K28-0788）。  
 帰ってきて木箱を開けると、中には小さな袋が入っており、これを開けると白っぽいサラサラした砂のようなものが入っていたという。遺留品は津多が手元で保管していたが、平成七年（一九九五）に墓を改葬した際に墓地に納められた。



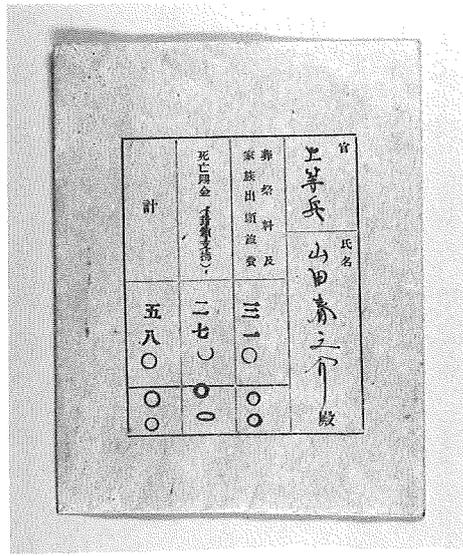
史料⑥ 袋 K28-0788

春之介の爪と櫛に付いていた髪の毛が入られたという。爪は春之介が出発前に切った爪を津多が内緒で取っておいたもので、津多は爪と髪の毛を残したことを生涯気にしていたという。遺骨伝達式は二十二年五月十五日広島県府中市明浄寺において執り行われた（史料⑤ 元陸軍関係遺骨

持っていたので、当初はこの家に住む予定であった。しかし、津多の叔父一家が疎開してきたため、別の家を探すこととなった。当時は疎開者が多く、貸家を探すのに苦労し、四月十二、十三日頃に八畳六畳の二間と台所のある小さな家を借りて引っ越すこととなった。春之介はこの家に教育召集から帰還し、また長女和子が誕生している。その後近所の三間と風呂のある家を借りた。後年親類から資金を借りて、この家を買った。



史料⑧ 辞令〈事務員〉K28-0814



史料⑦ 封筒 K28-0726

春之介が戦死したことにより、一家の経済的打撃は大きかった。二十二年に死亡賜金として、二七〇円が支給され、（史料⑦ 封筒 K28-0726）二万

円ほどが会社から退職金として支払われたのみである。津多はこの退職金で山林を購入し、将来は木を売って子どもの学費に充てることを考えていたそうだが、



史料⑨ 写真 K28-0708

心地から離れていたため、近隣へ行商に出るようになった。配給の米を買って米櫃に入れる時は、これで何日かは食べ物の心配がないと、嬉しかったという。この頃が一家にとって一番苦しかった時期だったという。二十五年三月から津多は油木郵便局の事務員に採用された（史料⑧）  
 辞令〈事務員〉K28-0814。津多の実家桑山家が特定郵便局をしており、局長は津多の実弟桑山泰三が務めていた。津多は仕事で夜遅くなることもあったため、兄弟だけでご飯を炊き、帰宅を待ってから食事をとったこともあったという。

戦後のインフレ、預金封鎖、新円切り替えで瞬く間にその価値を失ってしまった。津多は三人の子どもを抱え、内職をしながら

春之介の蔵書を使って貸本屋を始めた。残念ながらこれは長く続かず、次に親戚の支援で学生服の襟カラーや筆箱などのセルロイド製品の商売を始めた。しかし、家が町の中

長男健之介は高校卒業後、春之介の同僚の力添えで、東洋埠頭に就職することができた。次男の二郎も高校卒業後、親類の経営する海運会社に就職した。この頃から徐々に生活が安定していったという（史料⑨）  
 写真 K28-0708。

おわりに

今回の資料紹介では召集令状という一枚の紙で、普通のサラリーマンが兵士として出征し、離ればなれとなった家族の間で交わされた手紙を紹介した。手紙の内容を検査するという検閲が行われていたため、本来の心情を見せることは難しかったにもかかわらず、お互いの体を気遣い、子どもへの発育を心配していることが言葉の端々に窺うことができる。一口に戦没者約三〇万人<sup>(5)</sup>というが、その一人ひとりに心配する家族がいたことを痛感するものである。

（学芸部資料係 財満幸恵）

〈注〉

- (1) 大濱徹也・小沢郁郎編『帝国陸海軍事典』同成社、昭和五十九年
- (2) 新村出編『広辞苑 第六版』岩波書店、平成二十年
- (3) 『続・現代史資料六 軍事警察』みすず書房、昭和五十七年
- (4) 吉田裕監修・松野誠也編『日本軍思想・検閲関係資料』現代史料出版、平成十五年
- (5) 伊藤桂一『兵隊たちの陸軍史―兵営と戦場生活―』番町書房、昭和四十四年
- (6) 厚生省社会・援護局援護五〇年史編集委員会監修『援護五〇年史』ぎょうせい、平成九年

凡例

- 一、本稿は、山田春之介氏とその家族の間で交わされた手紙を翻刻したものである。掲載史料はすべて山田二郎氏より寄贈され、昭和館が所蔵するものである。貴重な史料を寄贈していただいた山田二郎氏に、この場を借りて御礼申し上げます。
- 二、史料は年月日順に配列した。ただし差出年月日が不明なものは消印の日付によって配列した。年代不詳なものは、内容から推察して適宜配列した。
- 三、消印、差出年月日は昭和年月日に統一し、宛名、差出人、本文の順に掲示した。
- 四、使用漢字は常用漢字に統一し、仮名づかいは原文のままとした。ただし、氏名などの固有名詞は原文のままとした。
- 五、改行は／で表した。
- 六、誤字は明らかな間違いのみを訂正し（カ）と傍注し、正誤不明なものは（ママ）と傍注した。判読不明なものは□で表し、検閲された文字は■で表した。

1 はがき (K28-0013)

昭和十九年三月十七日（消印）  
 兵庫県武庫郡魚崎町／横屋字内田五三／山田健之介様  
 ／山田二郎様  
 若松にて／山田春之介

出発の時はねむいのを我慢して見送してくれて有難う。／風邪をひかなかつたか心配してゐます。お父ちゃんも明日から陸軍二等兵殿です。案内婦郷が早いかも知れませんが成る可く早く母ちゃんと一所に油木に行きなさい。早く行かないと危険ですからね。引越の時には兄ちゃんも二郎ちゃんも手助けして自分の玩具おもちゃは自分で片づけなさいよ。／御弁当も御酒もおいしかったですよ。父ちゃん二晩続けて一睡／もしてないが元気です。若松の宿屋にはこたつがあります。／まだとても寒いですよ。来る途中には雪が沢山あつてそち／らの二月の始め頃の様です。喧嘩をしないで仲良く／遊びなさい。お母ちゃんの云ふ事をよく聞いてね。サヨナラ／

2 はがき (K28-0014)

昭和十九年三月十七日（消印）  
 兵庫県武庫郡魚崎町／横屋字内田五三／山田津多様  
 会津若松にて／山田春之介／十七日  
 あわたゞしい中に出発し非常に忙しい目をさせて気の毒でした。／油木から早速来た事でせう。当日は東海道線の列車事故のため全然／不通になり指定の急行は取消になり全く途方に暮れました。兎に角／名古屋以東は開通してゐるので名古屋迄行かねばと思ひ関西、関西線／經由をと思つて天王寺迄馳せつけたが既に列車なく全く閉口しました。／直に大阪駅に帰つて見ると丁度一〇時半の急行一本文章津線經由で／東京迄行くとの事但し軍人応召者丈乗せるとの事故幸ひ乗り込

／み十六日午後一時半横浜に辿りつく事が出来ました。前晚十時半から二時迄立ち続けて超満員で身動き出来ない状態でした。山成／で二時間程寝て晩食を喰つて八時半頃上野駅にかけつけた所その／人の多い事東海道線以上でこれ又一〇時四十分発の汽車に乗り込み／幸ひ腰はかけたが前日以上の超々満員で小便を窓からした様な始末／でした。／

3 はがき (K28-0015)

昭和十九年三月十七日（消印）  
 兵庫県武庫郡魚崎町／横屋字内田五三／山田津多様  
 若松にて／山田春之介

十七日朝七時半無事予定通り到着しました直に市役所に行き令状／を受け取りました。八十五日間の教育召集です。令状には通信手と／ありますから通信兵です。宿はどこでも断られ役場から交渉して貰／つて漸く宿る事が出来ました。第二国民兵も若い人が来てゐます。／山成では母上に是非来てくれとの事であり、軍需などの嵩張るもの／は矢張り撫順の方へ送る方がよいとの事でした。山成も置場に困／るからです。教育召集でも予定通り引上げを断行し二十八日迄／に完了して引払ふ様にして下さい。疎開のため列車は非常に込む故／引上げはどうしても二十八日迄にして汽車も屋頃の広島行の二等にして／福山で一晩止る位にしないと子供をつれての旅行は無理しては子供／が可愛想です。月末になればなる程こむからその積りで精々早くせよ。／それから川西氏へ満中陰の挨拶状を会社の庶

務の薬師と云ふ／のに頼んであるから出来たかどうか  
問ひ合せて下さい。／

#### 4 はがき (K28-0016)

昭和十九年三月二十三日 (消印)

兵庫県武庫郡魚崎町／横屋字内田五三／山田津多様／  
東部第二十四部隊／小林直隊／山田春之介／

貴地は既に春になつた事と思ひます。／当地は未だ降  
雪を見てゐます。丁度／貴地の二月初頃の気候です。  
／小生頗る元気で居ます。／意気益々熾にして天地を  
呑むの／概あり。／元気で暮せよ。／

#### 5 封書 (K28-0092)

昭和十九年三月二十七日 (消印)

福島県若松市東部第二十四部隊／小林直隊／山田春之  
介様／

広島県神石郡油木町／桑山泰三方／山田津多／三月  
二十七日／

魚崎の方へ出して頂戴しましたお葉書本日油木／にて  
受取りましたお元気で御奉公の由安心／致しました。  
若松の宿屋から頂戴しました御様子で／汽車が大変で  
ございましたそうで早目にお立ちに／なりまして何よ  
りだつたとみんなでおうわさを致しました／オーパー  
も油木へとゞいておりました故御安心下さいませ／私  
共あれから十五日の十一時すぎの汽車で泰三が／まひ  
り翌夕方油木母が上神致しました早速／荷造りにとり  
かゝりました二十三日汽車の方も案内／らくに油木へ

引上て帰りました瑞穂ちゃん十六日／より発熱なさ  
り辰中先生にみて頂戴き／ましたところジソウケツ  
セキの由にて腰のいたみ／もはげしく高熱がつゞきま  
した入院にでもなり／ましてはとみんなでも心配  
致しましたけれど／幸十九日頃よりいたみもとれお熱  
も下りました／二十三日には母上様と明ちゃん西谷  
へいらつしやり私共／六人は三宮から立ちました岡山  
で瑞穂ちゃんと別れ／まして油木へ帰つてまひりまし  
た瑞穂ちゃん学校／がはじまりますまで油木へいら  
つしやる様おやくそく／致しましたのでたのしみにお  
まちしております／子供達もいたつて元気に健ちや  
んも二郎ちゃんも／省ちゃん走りまわつてよく遊ん  
でおります引上ます／時床屋さんへまひりましたらも  
うオカツパは出来ない由／にてグルグ／ボヲツに致し  
ました健ちちゃんにはとても／よくにあつてかわいらし  
くなりましたが二郎ちゃんの方は一寸いた／しい  
感じでございます／こちらも家が今頃なつたお荷物  
がとゞくまでに／家のみつけておなくてはと出入の  
者達が一生懸命／になつてくれております撫順へは單  
筒、机／等は送らない方がよからうと川西様森様がお  
つしや／つて下さいましたので家具は全部油木へおあ  
づかり／してまひりました保険や株券の書類／は早速  
泰三が撫順の方へ送つてくれまして父上様／の満中陰  
のお返しも魚崎で小包のものは全部／送りまして葉書  
がまだ出来ておりませんので油木／の方へ送つて頂だ  
く様川西様へお願ひしてまひりました／この度は川西様  
と人夫の戸田さんとか言ふ方に／大変お世話様になり  
まして心丈夫でございました／油木も毎朝の霜で毎日

おコタにかぢりついております／お父ちゃんは老年兵  
だから皆様と御一緒に役にたつ／おはたらきが出来  
かしらんとお案じ申上て／おりましたが大変張きつて  
らつしやる様でほんとに／安心致しましたどうぞ御自  
愛遊ばしてしつかり／御奉公遊ばして下さいませ私  
もまけない様に／こちらでお仕事にはげみたいと思つて  
おります／二郎ちゃんが「おりこうしているからとお  
父ちゃんにそう言つて／ねー」とよく申してます今日  
もあまり二人共おりこう／だから省ちゃんと同じ三輪  
車を買つて上げようと／二人にやくそく致しましたら  
健ちちゃんも二郎ちゃんも／とても喜んでました／  
稲葉さんもお父ちゃんも「諸の日に応召になられ／  
ましてお様子頂戴しましたが本日頂戴いた／お葉書で  
は兵隊生活四日で帰郷なさいました／そうでございます  
した／お手紙度々差上度いと／思つておりますがどう  
ぞお元気で軍務におは／げみ下さいませかしこ／三月  
二十六日夜／津多／春之介様／

#### 6 封書 (K28-0093)

(昭和十九年) 三月二十九日 (消印)

福島県若松市／東部第二十四部隊／小林直隊／山田春  
之介様／

広島県神石郡油木町／桑山内／山田津多／

その後お元気でお過との事と存じます桑山にも／子供  
達も皆々変りなく賑やかにくらししております／昨日大  
阪から丹下の神戸女学院へ行つてる娘さん／が帰つて  
まひりましてのお話に二十四日からはキツプの／制限

がはじまつて、ものすごい人で三日かゝり位でキツプを求めた由で私共は二十二日の朝四時に住吉へ行けば大丈夫の由で油木おぼあちやんと泰三とが三時半におきてまひりました一番に帰つてまひりました／が汽車も三宮を八時四十分に立ちまして はじめから／席もあまりらくに帰つてまひりましたがほんとに良い時／に帰つたとみんな話しておりました西谷から門番／をつれていらつしやいました母上様はなか／＼キツプが／むづかし様明ちゃんよりお葉書頂戴しましたので／まだ横浜へよう行つてらつしやらないかしらんと／お案じ申上っております／昨日（二十七日）魚崎よりまわつて来ました電報により／ますと原田恵一様二十三日七時半戦病死の知らせ／がまひりました／そうで原田の皆々様のおなげきのほど／もしのばれる様でございます／油木も家がなくてあてにして帰りました家は一足違で／借りる事が出来ませんで出入の達人に大阪からお荷／物が来るまでにと方々がさせております福山から／油木までのトラツクも片山の君さん等の骨折で／何とか出来るそうでございます／どうぞお元気で御奉公遊ばして下さいませ／かしこ／三月二十八日／津多／春之介様／昨夜おそく徳山より電話にて耕平が内地の学校／へ帰る由にて今日油木へ帰ると申してまひりました／みんなでもつておりますまだ見習仕官でいる様で／ございます／

7 はがき (K28-0017)

昭和十九年三月□ (消印)

広島県神石郡油木町／桑山泰三様方／山田健之介様／

山田二郎様／

東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

大分暖くなつた様です。兩人とも元氣ですか／毎日仲良く遊んでゐますか。油木の方へ来て／何にもがめづらしく又電車や汽車が見られ／ないのが淋しいです。お母さんの言ふ事を良／く聞いてお利恰しいな／いとお土産がないよ。／こつちの方はまだ／寒いのです。然し頗る元氣／で顔も相当黒くなつた様です。ついでの方に／安全剃刀の片刃を送つて下さい。

8 はがき (K28-0085)

昭和十九年四月一日 (消印)

会津若松第二十四部隊／小林直隊／山田春之介様／

広島県神石郡油木町／桑山内／山田津多／

二申入れておきましたそれからお守を袋へ入／れて送りました故そまつになさらない様に／御神米は召上つて紙はきれいな所で焼いて／下さいませ父上様の満中陰のお葉書は／川西様へお願ひしておきましたけれどまだまひ／りませんそれから洋服はやはり仕立させ／ないでおくのでせうか（耕ちゃんも飛行機の偵察学校に／なる由にて三重県の学校へまひりました）／油木も大分暖くなつてまひりました子供達も外／の芝生でよく遊んでおりますもう少ししたらツク／シが出だしますのでお弁当をもつて子供達を少し外／へつれて出たいと思つております。健之介は局の／電話がめづらしくつて いないと思ふと局の二階へ上／つてゐました／

9 封書 (K28-0094)

昭和十九年四月三日 (消印)

福島県若松市／東部第二十四部隊／小林直隊／山田春之介様／

広島県神石郡油木町／桑山内／山田津多／

度々お葉書頂戴いただきましてうれしく拝見致して／おります大変お体の調子がおよろしい由にてほんとに／安心致しましたこの上共山々御自愛なすつて／軍務におはげみ下さいます様祈つております／合のシャツとツギン下との事まだ大阪からお荷物が／まひりませんのでつきしだいお送り致します故それまで／すみませんががまんしてゐて下さいませ／大阪から荷物を出して下さる日をわかりしだい知らせて／頂たく様川西様へ手紙でお願ひしておりますが／まだ何のお話もございません故なか／＼こないのではないかと／心配しております／母上様二十五日の夜行で京都から横浜へお立ちになりました／そうですがとても汽車がこんで前からおつかれも一緒に／出て毎日ねたりおきたりしてゐらつしやいます由にて／お父ちゃんのことをとても案じて原田の恵一様が／あんなにおなりでございますので氣病してゐらつしやる様／ですから私からも出しましたがお父ちゃんからも元氣／でゐらつしやる由を御様子して上て下さいませ／五月末には油木へいらつしやりたい様子が健や二郎／の事が思はれてしかたがないらしくお淋しい／御様子なので是非油木へいらつしやる様申しました事で／ございました／油木も大分暖く

なりましたもう少ししたらツクシも／出だしますので  
お弁当して子供達を少し外へつれて／出たいと思つて  
おります／こちらも東京大阪から帰つて来る人達が多  
くて家／がないのはこまつております母上様のタン  
ス等も皆／油木へおあづかり致しましたのでそれに私  
共の道具も／そうとうございますし出入者達が心配し  
てくれてゐます／から近い中にはみつかる事と思つて  
ゐます／私共二十三日に帰つてまひりましたが二十四  
日からはキツプ／の制限をはじめ油木の人が二十四  
日に大阪を立つて／帰つた人が途中三日宿りで帰つた  
由にてほんとに／良い時に帰つたものだと話しました  
事でございます／瑞穂ちゃんも二十五日に岡山駅へ出  
て油木へいらつしやる／キツプをお求めにならうとお  
思ひになつたのにもす／ごい人でとう／／よういら  
つしやいませんでしたそうで／おかわいそうな事をし  
たと思ひました私も／お陰様で大変体の調子もよく油  
木の産婆さんは／七月はじめとの由にて又男の子の様  
だと申して／おりました私の手紙まだ一通もお手に入  
つて／おりません様でしたね健も二郎ちゃんも省ちや  
んも皆／ねむつて大風が落ちた様です／四月二日／津  
多／春之介様／お葉書下さいませ時月日を入れておい  
て下さいませ／亮ちゃんに知らせてありますのでせう  
かしらん／

10 はがき (K28-0019)

昭和十九年四月三日 (消印)

広島県神石郡油木町／桑山泰三様方／山田津多様／  
若松市東部第二十四部隊／小林直隊／山田春之介／

御手紙有難うございました。小生出発後の／様子も分  
り安心いたしました。荷物も全部／油木に行つた様で  
すが別に破損したものは／なかつたですか。皆元気で  
結構です。／序の時があつたら毛糸のシャツを一枚送  
つて／下さい。便りも暇々には下さい。／当地は今日  
も雪です。気候は約一ヶ月遅／れて居る様です。／

11 はがき (K28-0020)

昭和十九年四月四日 (消印)

広島県神石郡油木町／桑山泰三様方／山田津多様／健  
之介様／二郎様／  
東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

御便り有難うございました。御地の様子も追々明白と  
なり／小生も安心しました。皆元気で何よりです。家  
が早く見付ければ／いゝが荷物が来ると困るし亦子供  
達も困りはしないかね。母上は／もう横浜に行かれた  
事と存じます。桑山も大勢引受けて非／常に気の毒に  
思ひます。喰物に不自由する事はないかね。子供／達  
には充分やつて下さい。当地は相変らず寒く毎日雪が  
降り／桜の開くのは今月の末頃になるでせう。当地附  
近は桜の木が多く満／開の時は嘸かし美事だろうと思  
はれます。小生喰物の故か全身／ジン麻シンのため痒  
くて困ります。此の葉書の便りも之が終りで／葉書と  
沓錢切手が至急欲しいと思ひます。入手次第御願／ひ  
しますそれから先便にて御願した安全剃刀の片刃とイ  
ンクが／あれば何とかして欲しいと思ひます。原田の  
恵ちゃん戦病死の由／何とも御気の毒に堪えません其

方から宜敷御悔状と御香典を／送つて下さい。度々御  
便り御願ひします。／

12 はがき (K28-0083)

昭和十九年四月七日 (消印)

会津若松東部第二十四部隊／小林直隊／山田春之介様  
／  
広島県神石郡油木町／山田津多／

今朝お葉書二通頂だきました二十日／からの手紙もお  
手に入つたらしく安心して／下さいました事と思ひ  
ます召上り物の段に／体中ジンマシンの由さぞかし  
ごなんぎな／事とおさつし致しておりますまだ小包は  
／お手に入りませんのでせうねシャツとの事で／毎日  
魚崎からの荷物のとゞくのをまつてゐる／のですが川  
西様から三月三十一日付で頂だいた／お手紙によりま  
すと今荷造り中で貨車／がとれしだい送るとの由にて  
まだなか／／らしくお気の毒ですが今しばらくおま  
ち下さ／いませ私共も二十二日からチツキに制限が出  
来て／

13 はがき (K28-0087)

昭和十九年四月七日 (消印)

広島県若松／東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介  
様／

広島県神石郡油木町／山田津多／  
2／ほんとの身のまわりのものだけもつて帰りまし  
たのでこまつております荷物つきしだいセツケン／シ



で不自由も／なくそれに買出と言ふ事がないので一日  
中自分の時間が／もてます為とても気分がのんびりし  
ていろ／＼と子供の／事も見てやれますのでそれが一  
番うれいと思ひます／健等はすつかり近所の子供と  
お友達になつてのびやか／に田んぼの方をとびまわつ  
て日にやけて丈夫そうに／なりました二郎ちゃんも外  
の日あたりで土ほりをして／お天気さへよければお十  
時もお三時もわすれて遊んで／おりますニワトリ、牛  
がとなりの家におりますし／向は麦畠が青々とつゝい  
てほんとに田舎の土の生活で／ございます子供達の発  
育盛りを田舎の土の中でうんと／のびやかに丈夫に育  
て、やりたいとそのみ念じており／ます／昨日お荷  
物のかたづけもやつとすませましたので／お申越のシ  
ヤツとセツケン早速小包にて御送付申上／度いと思つ  
ております新聞を佐藤浅太郎氏が／息子の所へ送つて  
いるそうでお宅もそうなさつてはと／申しております  
がもし送つても良い様でしたらお送り／申上たいと思  
ひますが如何でございませうかもししいけない／様でし  
たら耕平の方へ送らうと泰三が申しております／魚  
崎から二通証明をもらつて帰つておりますので／同封  
の写真は耕平が新京から帰りに寄りました時／三輪の  
眞三さんがとつて下さいまして小さい方を山田さん／  
へ送つて上てくれと二とほり下さいましたので小さい  
方を入れて／おきました／二郎ちゃんも省ちやんにく  
らべると口がなか／＼ですがでもこの頃／では大分よ  
くまわる様になりました／原田にも皆々様とてもおな  
げぎの様でございます／むつ子様も来月がお産の由で  
お里の方へ引上てお帰りに／なりましたさうでござい

ます／ではお体にお気をおつけになつて御奉公遊ばし  
て／下さいませ様今健がツクシをカゴへ一ぱいとつて  
／来て大喜でお話をしております／四月十六日／津多  
／春之介様／本日果糖のお代を送る様果糖の会社から  
言つてまひりました／のでございますがいつか為替を  
くんでゐらつしたのはどんなになつて／いるのでせう  
かお知らせ下さいませ／

17 はがき (K28-0022)

昭和十九年四月十七日 (消印)

広島県神石郡油木町／桑山泰三様方／山田健之介様／  
山田二郎様／

東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

健ちやん、二郎ちゃん元気ですか。／毎日何をして遊  
んでゐますか。油木へ来てから／大変御利恰になつた  
さうで喜んでゐます。／母ちゃんの言付をよく聞きな  
さいよ。此間／御餅をついたさうですが珍しかつたで  
せう。／時々御便りを下さいよ。こつちからも上げる  
から葉書を参拾枚程送つて下さい。／こちらはまだ雪  
が降りますよ。／おいりがあつたら欲しいです。サヨ  
ナラ／

18 はがき (K28-0023)

昭和十九年四月十七日 (消印)

広島県神石郡油木町／桑山泰三様方／山田津多様／  
東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

先日御送付の葉書正に受取りました有難うございま

た。戦／友達に分けたので早残り少なになりました。  
また頼みます。洋服／の仕立は出来ればおいて下  
さい。出来なければ生地を取返して／おいて下さい。  
それから毛のはいらぬから合のを頼みます。／当地は  
未だ四月半だと云ふのに雪が降ります。寒いのは閉口  
／です。満中陰の印は、残りなく御送り願ひます。小  
生益々／元気故御安心下さい。原田の叔母さんから手  
紙を頂きました／恵ちやんは急性肺炎とのことです。  
充分気をつけて下さい。／健、二郎ちゃんは如何がし  
てますか。桑山にはその中度々礼状を／出しますが其  
方から宜敷御伝へ下さい。荷物はもうつきました／か。  
山成には未だ便りを出してゐません。急しい生活故そ  
ちら／から宜敷御便り願ひます。足にまめが出来て  
困つてゐます／油木の母上御元気ですか。便りを度々  
下さい。／

19 封書 (K28-0026)

昭和十九年四月二十二日 (消印)

福島県若松市／東部第二十四部隊小林直隊／山田春之  
介様／

広島県神石郡油木町／山田津多／

その後はおかわりもなくてゐらつしや／いませうかど  
うぞお元気で御奉公／が出来ればよいがといつ  
も／お案じ申上ております。私共／も桑山にも一同変  
りもなく毎日／をお仕事に追はれながら元気で／働  
いております故どうぞ御安心／下さいませこの家にも  
大分なれ／てせまいながらも きちんとお道具も／お

さまりました落ついて毎日お仕事／にせいを出してお  
ります／男手がないからと申しまして泰三が／自分の  
家の事は何一つ致しませんの／にこの家の事となりま  
すとほんとに／よく世話してくれませす母や三代子／が  
内でもこの位働いてくれたらよい／なと申してゐませ  
／子供達もとても丈夫になりました／二郎ちゃんも色  
も黒くなりよく太りました毎日省三健と三人でいた  
／づらばかりして遊んでおります／昨日は桑山の裏の  
芝生へスベ／リ台を出してもらつて健も二郎／ちゃん  
も朝から晩まで帰つてまひり／ませんで油木のおばあ  
ちゃんも一日中／子供の世話でスベリ台の下へすわ  
／つてゐたと申して大笑でございました／お三時にはホ  
ットケーキをつくつて／みんなを呼びに行き泰三も  
／おばあちゃんも三代子も赤ちゃんも／みんな来てお茶  
を頂戴しました／お父ちゃんのおすきなものを頂だい  
／たりつくつたりしますと若松の／方へむけて本箱の  
上へ陰ぜんを／そなへましたのではじめは子供に／わ  
かりかねたらしうございました／けれど今頃ではすぐ  
お祖父ちゃん／の仏様とお父ちゃんへもつてまいり  
／ますたきませ御飯をつくれば／本箱の上へもつて行き  
／アンコの／お餅をもらへばもつてゆきます／昨日はホ  
ットケーキやらお餅／やらおすきなもので健が  
／お父ちゃんのおすきなものでばかりだね／と申してお  
りました／生れた土地つてほんとによいもので毎日  
／々々あちこちから頂戴だぎどほしで／田舎の人の心か  
らの親切さには頭の／さがる思ひでございます／魚崎  
の毎日買出に出あるいていた生／活から油木の生活に  
変わりますと／ほんとに身も心ものび／として／これ

では都会の方々にすまない様／な気持が致します／昨  
日平川の赤ちゃんのおたんせう／日でみんなでおよば  
れしてまひり／ました帰りに裏山の椿を折／つて帰つ  
て今日は床へ生けました／ふかみどりのツヤ／した  
葉／の陰に真赤な花が二リン／えもいへぬ風情でござ  
／いました／一寸見せて差上たいなあと思ひ／ながらこ  
／ちらの部屋から一人で／ながめておりました／先日送  
／付致しました子供の写／真つきました事と思ひます  
／耕平も毎日太平洋の上を／とんでると昨日も葉書が来  
／て／おりました／どうぞ御自愛遊ばして御奉公の／誠  
／をおつくし下さいませ／かしこ／四月二十二日／津多  
／春之介様／母上様へお便を差上て／下さいませ

20 はがき (K38024)

昭和十九年四月二十四日 (消印)

広島県神石郡油木町／桑山泰三様方／山田津多様  
／東部第二四部隊小林直隊／山田春之介

御送付の小包正に受取りました。荷物が届いた様です  
ね／石鹸、塵紙は当分の間大丈夫ですから後は心配い  
りません。／手紙や小包が来るととても嬉しいです。  
暇があつたら面会す／る積りで御願ひいたします。慰  
問袋至極結構で歯磨粉／歯楊子 (ブラシユ) 炒豆煙草  
手帳など頼みます (可成早く)。おிரりが待遠しい様  
です。／それから万年筆を紛失したので至急送つて下  
さい。インクを／中に入れるのを忘れない様に。健、  
二郎は元気ですか。油木で／この間餅をついた相です  
が硬くて喰いたい様で遙に去年を／思ひ出してゐま

す。小生至つて元気です。二人とも元気でゐるのが  
何よりで便りを待つてゐます当地は未だ寒く桜が咲く  
の／が待遠しいです。油木の近況を御報せ下さい。何  
分遠いから／面会に来て貰へぬのが淋しい限りです。  
ハガキを至急に頼む

21 はがき (K380086)

昭和十九年四月二十六日 (消印)

福島県若松市／東部第二四部隊小林直隊／山田春之  
介様  
／広島県神石郡油木町／山田津多

その後おさわりもなく軍務におはげみ／の事と存じま  
す。私共三人もいたつて元気／にて送日頂しておりま  
す故御安心遊ばして下さ／いませこちらも桜がぼつ  
／咲きはじめてまして／ほんとに春らしくなつてまひ  
りましたツクシも出盛／りでお弁当をつくつては桑山  
のみんなと子供を／つれてよくつみに出かけておりま  
す田舎の子供に／くらべると健も二郎ちゃんも田のア  
／ゼ道の様な細い所／をあるくのが下手です健の方は大  
分上手になつてつれ／て出るととても大喜です顔が  
真黒になつて田舎の／子らしくなりました会社にも奥  
原様応召で白石様／が帰つていらつしたそうでござい  
ます／門田にも重文様現／地応召で家族の方達福山へ  
帰つていらつしたそうで／ございますが四人のお子さ  
／んでさう／／しいのにおこまり／の様でございました  
／山々御自愛下さいませ様

22 はがき (K23-0025)

昭和十九年四月二十六日 (消印)

広島県神石郡油木町／桑山泰三様方／山田津多様／  
東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

其後絶えて御便りが無い様ですが何か変つた事で／も  
ありましたか。当地も漸く春の便りが来た様で何／と  
なく嬉しく思はれます。若松の何と寒い事或は油／木  
と変らないかも知れません。先日葉書を出したが受／  
取りましたか。葉書が種切れですから至急送つて下さ  
い。／それから先便にも書いたが手帳かノートが是非  
必要なので／これも至急御願します。慰問袋至極結構  
です／子供達は元気ですか。別に不自由はありません  
か。先日／川西君より便りあり奥原君応召白石君帰還、  
会社は／統制会社の傘下に入った由。但し会社は元の  
まゝにて候／桑山の皆様に宜敷、子供達病気をしない  
様に祈る／

23 はがき (K23-0026)

昭和十九年五月一日 (消印)

広島県神石郡油木町／桑山泰三様方／山田津多様／  
東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

御葉書有難う。子供達も土の生活に其日／＼を元気に  
暮して／ゐる由ほんとうにのびやかにしてゐる様が目  
に見える様です。／段々日が近づくにつれ仕事をする  
のが難しくなるでせうが魚崎の／様に毎日を出歩く事  
もなく、桑山方々の御世話で随分ゆつくり／した事と

思ひます。先日出した便りは未だ着かないらしいが齒  
楊／子歯磨粉はい／からナイフと鉛筆を代りに慰問袋  
に入れて下／さい。其他気のついたもの果糖菓など結  
構でおいり大歓迎で／す。小生お蔭で元氣にて色はず  
つかり黒くなりました。それ／から寄留届は小生共四  
人のを直にしておいて下さい。配給の点を／考へて、  
又母上のは横浜に寄留して貰ふ様出しておきます。／  
兄上から何か便りがありましたか。方々にまだ／＼便  
りをしな／ければと思ひ乍ら欠礼してゐます。健、二  
郎元氣で／

24 はがき (K23-0027)

昭和十九年五月一日 (消印)

広島県神石郡油木町／桑山泰三様方／山田津多様／  
東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

手紙二通同時に受取りました。健と二郎の写真久し振  
りに見ると頭を刈つた故／かすつかり顔が違ふ様で  
す。暇々に出して見えては楽しんでゐます又健の書いた画  
／もすつかり嬉しくなりました。大分上手になつた様  
ですね。時々送つて下さい。とても楽／しみです。時々  
出して見てゐます。丁度家が見付かつて好都合でし  
た。小さくても／自分の家となれば子供も落ちついて  
遊ぶ事が出来るでせう。荷物が多くて桑／山にも大変  
御迷惑をかけます。而しこれで小生も一安心いたしま  
した。果糖の／代金は為替を取戻し葬式の時の費用に  
立替へしましたので其方で払つておい／て下さい。撫  
順の兄さんに小生より葉書を出して送つて貰ふ様に取

計ひます／新聞は一週間に二回位送つて下さい。送る  
事は何でも一向かまひせんから。方々に通信／するに  
葉書がないから至急御願ひいたします。それからメン  
タムを一つ送つて下／さい。足に豆を出来して晴の天  
長節観兵式に参列出来ませんでした。当地も桜が少  
しく綻びかけました。これから戸外に出るのが楽です。  
先達の葉書届きましたか／休みが続くと面会が多くて  
羨しい様に思はれます。時々小包の顔を見せて／下さ  
い。原田の睦子さんはほんとうに御氣の毒です。小生  
は至つて元氣故御安心下／さい。果糖の方は宜敷頼み  
ます。小生よりも出して置きます。果糖を入れて／貰  
つても結構ですよ。健ちゃん二郎ちゃんの画を又送つ  
て下さい。／楽に待つてゐますから／

25 封書 (K23-0028)

昭和十九年五月一日 (消印)

福島県若松市／東部第二十四部隊／小林直隊／山田春  
之介様／

五月一日／広島県神石郡／油木町山田津多／

四月二十四日付、二十六日付とつゞいて／お葉書頂だ  
きうれしく拝見／致しましたお元氣で御奉公の／御由  
何よりと心うれしく存じられ／ます／しばらく失礼し  
て御心配下さいまし／た由あの時はこの家への引越や  
ら／御挨拶まわりで心にありながらも御無沙汰致しま  
した私も子供／も至つて元氣でございます故御安心／  
遊ばして下さいませ／空気がよいのと頂たくものがよ  
いのと／で二郎ちゃん等顔に赤みが出て／丸々と太り

ました卵やお餅等／つよいものばかり頂きますので  
 ／二郎ちゃんも体へブツ／が出来て／とてもかいが  
 つてこまりましたが今頃／やつとなほりました健はお  
 友達／が多くさん出来てお十時もお三時／も頂だくの  
 を忘れて遊びまわつて／おります外で遊ぶのが忙がし  
 ／くて御飯を頂だくのも落ついて／頂だけないしまつ  
 で真黒に／日にやけてとてもかたく太りました／そん  
 なものですから夜は／つかれて早くからやすみます／  
 昨夜はおねまをひいておりました／急に目がいたい  
 〳〵と健が泣き出／してあまり泣き方がひどいので泰  
 三／を呼んで来て平岡へおんぶさせて／やりましたら  
 急性の血マク炎との／事で大した事はないとおつしや  
 り／目薬頂だきました／今日はもう／ケロリとして遊  
 びに出ております／昨日(三十日)会社より様子がご  
 ざ／いまして今度の昇給は二十九円／でございました  
 桑山の母がととも／喜んでくれました／会社も統制  
 会社の傘下に入つて／もそのまゝ残りほんとはよかつ  
 たと／思ひ桑山の皆と喜びました事です／横浜母上様  
 も五月二日が父上様の／百ヶ日で京都へいらつしやる  
 様西谷／から様子を頂だきましたので油木／へもいら  
 して下さる事とたのしみに／おまちしております／瑞  
 穂ちゃんも魚崎がなくなつてととも／お淋しそうで昨  
 日も泰三と私へ／お手紙下さいまして今年夏／休が  
 ないかもしれない様申してゐら／つしやいました／瑞  
 穂、明ちゃんへオイリを送つて上よ／うと思つてゐま  
 す／豊中の近藤様へ小豆を送つて／おきました川西様  
 がよく世話して下さいますので子供様方へ何か／送り  
 たいと思つております／お申し越の葉書ノート煙草／

ハミガキ粉ハブラシ万年筆／送りました。オイリも  
 砂糖／が配給になつたので桑山のおばあ／ちゃんがあ  
 ラレお豆さんを入れていて／いてくれましたので別の  
 小包にして／御送付申上ました又お送り致し／ます  
 葉書煙草は一度に／多くさん求められませんでした度々  
 に／お送り致します／新しい家にも大分住みなれて／  
 毎日お仕事にせいをし出して／おりますこちらは今頃桜  
 の盛りで／子供達を種畜場へつれて行／つて桜や牛を  
 みせたいと話して／おります／それではお風邪を召さ  
 ない様／に御奉公遊ばして下さいませ／かしこ／五月  
 一日／津多／春之介様／

26 封書 (K38.0097)

昭和十九年五月五日(消印)

福島県若松市／東部第二十四部隊／小林直隊／山田春  
 之介様／

五月四日／広島県神石郡／油木町山田津多／

五月一日付のお葉書二通受取り／しました／お元気の由  
 にて安心致しましたが／足に豆が出て天長節観兵式に  
 ／参列お出来になれませんでしたのは／ほんとに残念  
 だつた事に存じます／魚崎でも足々とよく足の事を聞  
 いてみましたので桑山の者達と／お父ちゃん足に  
 一番こまつてらつしや／るんではないかしらんとわ  
 ざして／おります／子供の写真健の絵がとゞぎ／まし  
 たらしく安心致しました／きつと喜んで下さる事と  
 思つて／おりました今頃はあの写真とは／まるで変つ  
 て大きく太つております／お手紙が手に入るのはな

か〳〵／日数がかゝる様でございましたね／お申し越  
 のナイフ鉛筆メソ／等近日中にとりそろへ御送付／  
 申上ますナイフはあるいは無い／かもしれませんけれ  
 ど／果糖のお代はもしやと思つて／そのつもりで別  
 しておりますのが／ございますから決して撫順へは言  
 〳〵つて下さいません様にお願ひ申上ます／早速明日果  
 糖の会社の三和／銀行の口座を用いて送つておき／ま  
 すから／撫順兄上様から一度お手紙／頂だきました瑞  
 穂ちゃん／明ちゃん達のお休の時は私がお世話／させ  
 て頂だく様申上ましたので／兄上様からもどこへも行  
 く所が／ない故よろしくたのむと言つて／まひりまし  
 た／亮ちゃんへも私からくわしくお手紙／差上ておき  
 ましたが入達に／亮ちゃんからもお葉書がまひりまし  
 て／撫順へ行つてはじめて聞いた／話にびっくりした  
 様言つてまひつて／おります／五月二日父上様の百ヶ  
 日に母上様／一日に横浜をお立ちになり京都／へいら  
 つした様でございます四日頃／福山へいらつしやいま  
 すそうで明日／(五日)頃は油木へいらつして下さる  
 〳〵様になるだらうと思つてゐます／五日は油木の国民  
 学校の運動／会で近所の子供達の健と毎日／遊んでお  
 ります子供達が皆見に／来てくれと申しますらしく健  
 〳〵がとともたのしみにしておりますので／今日はお巻  
 ずしをつくりました／桑山にも明日は早くお煮め／等  
 つくつて母上様がいらつしやるまで／にみんなで見に  
 行こうとたのしみ／にしております／健も二郎ちゃん  
 もお天気さへよければ／一日中外で友達と走りまわつ  
 て／遊んでおります大きな自然の中／でほんとうにの  
 び〳〵と遊んでる／姿を見ますとほんとに田舎へつれ

／て帰つてよかつたつくぐ感じ／させられます健  
は／言葉も大分油木言葉になつて／近所の者が坊ちや  
んが早油木の言／葉を習はれたと申してびつくりして  
／おりました。二人共とても気分が／大きくなつてゆ  
つたりとしてきました／油木のお祖母ちゃん日は  
何辺でも／めづらしいものをもらつたりつくつたり  
したのをもつては通つておりますが七日／には徳山へ  
行くと申しておりますから／淋しくなる事と思ひます  
／春之介へ手紙を出したが小島隊／として出したから  
と／かないだら／うと申しております／今日は床へ  
白玉椿をさしました／八分咲の白い花が二輪とても  
美しうございます／前の麦島の麦がとても／びて  
青々とつゞいておりますこれから／山国はみどりの美  
しい季節／となります／五月四日夜／津多／春之介様

27 はがき (K28-0028)

昭和十九年五月六日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

若松東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

当地も桜満開の春が来ました。付近の桜樹の多い事／  
誠に見事なもので毎日眺めては楽しんでゐます。油木の  
方は如／何ですかもう咲いた事でせう。健や二郎ちや  
んが桜並樹の下で／遊んでゐる様子而ものんびりと三  
人で仲良くしてゐる様／子を思ひ浮べてゐます。先日  
御送付の小包嬉しく戴き／ました御安心下さい。万年  
筆は無事届き異常ありま／せん。立派な手帳、葉書有

難う葉書は気の付いた時／送つて下さい。煙草は何よ  
り嬉しく此も葉書と同様時々／御頼みます。小包、  
手紙の来た時はほんとに子供の様／な気持ちになり嬉し  
くて嬉りません。小生は頗る元氣にて／氣候が暖くな  
つたのが何より嬉しいです。／

28 はがき (K28-0029)

昭和十九年五月九日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

皆元氣の事と思ひます。色々と面倒をかけます。当地  
は／桜も満開を過ぎました。日を追ふて暖くなりつゝ  
あります／小生にとつては大助かりです。油木の母上  
御元氣ですか。先日／御送付のおいり有難う。念入り  
な心のこもつた母上様のおいりと／なると粗末には出  
来ません。とても嬉しくて嬉りません。もつとあ／つ  
たらと欲も出るものです。こんどの時にはあれ程念入  
りで／なくてもよくこれに類したものと楽にしてゐ  
ます。現在は／全く子供の様なものです。又わざ／々  
缶に入れなくても紙袋か／紙箱でもいい／でせう。先達  
御願したインクはもうい／です。手／に入れましたか  
ら。健、二郎のお三時はどうしてゐますか。今年は／  
芋でも沢山植えたら如何。小生齒も丈夫になり生の硬  
い／餅でもポリ／／かぢる事が出来る様になりまし  
た。／

29 はがき (K28-0030)

昭和十九年五月九日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

若松東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

御手紙有難う。健が目が悪くしたさうですね。二郎ち  
／やんも加減が悪くてお困りでせう。而し喰物がよく  
ての事／故心配いたしません。父上の百ヶ日も過ぎ全  
く感無量です。／母上貴地に行かれる由宜敷、会社よ  
り昇給の通知ありたる／由全く嬉しい限りです。近藤  
所長へ御心付有難う。色々と／心配をかけます。健の  
可愛い折紙中々上手ですね／二郎ちゃんはまだそこま  
でゆきませんか。時々送つて下さいと／ても楽になり  
ます。身体には充分気をつけてゐますから／何卒御安  
心下さい。そちらも精々無理をせぬ様祈ります／健康  
になつた故が食欲旺盛です。川西君の方には度／々通  
信をしてゐます。桑山の皆様に宜敷／

30 はがき (K28-0030)

昭和十九年五月十日 (消印)

福島県若松市／東部第二十四部隊／小林直隊／山田春  
之介様／

広島県神石郡／油木町山田津多／

若松も桜の盛りでございます由油木よりはまだ／氣候  
がおくられている様でございますねお元氣／で軍務にお  
はげみでゐらつしやいます由何よ／りとうれしく存じ  
ます本日 (五月十日) 小／包送付申上ました桑山のお  
祖母ちゃんは今／日徳山へまひり淋しくなりました小  
田さんジンゾ／ウケツカクの由にて今度はだめかもし

れないと／言つてきております果糖のお代先便のお手紙／にも書きましたが封書はお手に入るのがおそい／様でございますので気にかゝるまゝペンをとりました／もう三和銀行の口座を用いて送りました故／決して撫順へは言つて下さいません様にもしもう／おつしやいました様でございますましたら貴方様から取／

31 はがき (K28-0091)

昭和十九年五月十日 (消印)

福島県若松市／東部第二十四部隊／小林直隊／山田春之介様／

広島県神石郡／油木町山田津多／

二伸けしておいて下さいます様くれぐ／もお願／申上ます横浜母上様今福山まで来てい／らつしやる様でございますので毎日今日か／と油木／へいらつしやるのをおまち申上ております奉天／の俊子様もお目出度で十月にお産の由でございます／ますお忙がしいお体でございますが一度兄上様亮／ちやんへお便り差上て下さいませ子供達も元気／で見違へるほど体がよくなりまして田舎へいる／間にうんと体を丈夫につくつておいてお国のお／役にたつ男子に育て、やりたいと一生懸命／でございますどうぞ山々御自愛遊ばして／軍務におはげみ下さいます様祈り上ます／五月十日／

32 はがき (K28-0031)

昭和十九年五月十二日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

若松東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

御手紙有難う。皆元気で何よりです。運動会がある／さうで健がとても喜んでゐる様子、御弁当をつくつてゐる／る様子が目に見える様です。健、二郎ちやんは巻ずし／が好きだから沢山つくつて喰べた事でせう。序の時に国／防色の糸を一撚でいゝから御願ひします。持つてゐたの／を紛失してしまひました。当地も愈々若葉の候となり／ます。小生至つて元氣にて鉛筆を持つて御奉公してゐ／ます。健ちやんの折紙なり画なりお送り下さい。何か／来ないかととても楽しみにしてゐます。油木の桜はもう散／つて青葉、若葉の目の覚める様な景色が思ひ浮ばれ／ます。母上様徳山に御出向との事、徳山へ通信します。／

33 はがき (K28-0032)

昭和十九年五月十三日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田健之介様／山田二郎様／東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

先達は折紙やら画を有難う。汽車や自動車／の画がとても上手になつたですね。度々書いて送／つて下さい。毎日二人で仲良くしてゐるさうで母ちやん／とても喜んでゐます。学校の運動会にお寿司の／御弁当を持つて行つたさうですがさぞ面白く／愉快だつたでせう。随分二人でお弁当を喰べた／事でせう。その様子を知らして下さい。こちら／も暖くなつて元氣をとり戻しました。毎日鉛筆と／紙とで懸命の努力をしてゐます。母ちやん／のお手伝をよくしなさいよ。サヨナラ／

34 はがき (K28-0033)

昭和十九年五月十六日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

本日御便り有難う。母上福山まで御出掛の由。近い／中に油木に行かれる事でせう。果糖代の事御／心配無用にて御便りを戴いて撫順の方には何の便／りも出してゐません。万事済んだとなれば当方よ／りは何も云つてやりませんから御安心下さい。重々／御心配をかけて申訳ない次第です。子供達／元氣にて何よりです。田舎にゐる間に純朴な／健全な身体にして人に後れをとらぬ精神を／養つておいて下さい。亮ちやんからは便りあり十月／頃御目出の由、大いに張切つてゐる様です。／

35 はがき (K28-0034)

昭和十九年五月十六日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／東部第二十四部隊小林直隊／山田春之介／

亮ちやん転動になつたさうですが奉天市には異動／なします。兄さんには一度便りを出した切りにて一度も／便りなしです。当方より亦出して見ます。小包を／送つてくれたさうで楽にして待つてゐる様はまるで／子供の様です。当地はほんとに今が一番いゝ時候／でせう。身体の具合は如何ですか。段々と仕事を／するのが苦しくなつてくるでせう。決して無理をせぬ様

／お祈りいたします。小生一日動く事なく而し頭／は一〇〇％使ひ一番の成績をとつてやろうと野心満／々です。また御便り下さい。待つてゐます。／小田さん愈々駄目ださうですが何とお気の毒です。御見舞を上げて下さい／

36 はがき (K28-0035)

昭和十九年五月十九日 (消印)

広島県神石郡／油木町／山田健之介様／  
東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

健チャン元気デスカ／毎日才友達ト仲良ク／一日中外  
デ遊ンデキルソ／ウデスガ色モ黒クナリ／丈夫ニナツ  
タ事デセウ／魚崎ヨリモ油木ノ方ガ／ノンビリシテ面  
白イデセウ／折紙ヤラ画ヲ送ツテ／下サイ。デハサヨ  
ナラ／

37 はがき (K28-0036)

昭和十九年五月十九日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／  
東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

小包有難う。厚く感謝いたします。貴重な／果糖、煙  
草尤も嬉しく思ひました。小生毎日／元氣にて御奉公  
してゐます故御安心下さい。さて／書類を包んで歩く  
のに必要なので比較的大きな／風呂敷があつたら至急  
御送り下さい。健や二郎／省ちやん皆元氣で毎日仲良  
く遊んでゐる事と／思ひます。青葉の候とて偶に戸外  
に出ると目の／覚める様な緑に疲れを忘れず教室の

外は／桜と紅葉の青葉で実に美事です油木も愈々戸  
外の氣候となつたでせう。子供達をつれてハイ／キン  
グにせいぐ／つれて出て下さい。／

38 はがき (K28-0037)

昭和十九年五月十九日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／  
東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

先日は御便り有難う。皆元氣にて何よりです。油木／  
の母上より御葉書戴きました。当地は初夏の候とて／  
若葉の香に包まれ初めて来た時を思ひ起します。／小  
包はまだ着きません。何が出てくるか楽しみにしてゐます  
／こゝまで書いたら丁度今着きました。鉛筆、葉書有  
難う。立派／なナイフこれはよく切れるので助ります。  
鉛筆が武器故有難く／感謝します。貴重な果糖は戦友  
達と少しづゝ戴きました。久々／々振りに其味に接し魚  
崎を思ひ出し懐しく思ひました。煙草／も結構でした。  
金鶏に限りませんから亦宜敷。紙は当分大／丈夫です  
から御心配いりません。数々の宝ほんとに感謝いた  
／します。受取つた時はほんとうに嬉しいものです。／  
小生元氣故御安心下さい。健、二郎ちゃんに宜敷／

39 はがき (K28-0038)

昭和十九年五月二十一日 (消印)

広島県神石郡／油木町／山田二郎様／  
東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

二郎チャン元気デスカ／毎日兄チャント仲良ク／遊ン

デキマスカ／此間御弁当ヲ持ツテ運／動会ヲ見ニ行ツ  
タソウ／デスガ面白カタデスカ／モウ画ガ書ケマス  
カ、書／ケタラ送ツテ下サイ。／ソレデハ病氣ヲシナ  
イ様ニ／

40 はがき (K28-0039)

昭和十九年五月二十三日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／  
若松東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

先日は新聞を御送付に与り有難うございました。久振  
／りに見て色々と知識を得ました。時々御送り下さい。  
しば／らく便りが途絶えた様ですが別に病氣でもした  
の／ではないのですか。横浜の母上は油木に行かれま  
した／か。横浜から母上出発以來何の便りもないので  
心配／してゐる様です。子供達も病氣もしないで元氣  
でゐ／る事と存じます。油木の母上より葉書を戴きま  
した。／原田の睦子さんは今月産れるさうですね。叔  
母さんから／便りがありました。若松は昨日今日雨の  
ためか急に寒／くなりました。天候不順故身体にはよ  
く注意してください／

41 はがき (K28-0040)

昭和十九年五月二十四日 (消印)

広島県神石郡／油木町／山田健之介様／山田二郎様／  
東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

皆元氣ですか別に病／気はしませんか。／健ちゃんも  
二郎ちゃんも／仲良く遊んで丈夫に／なり、そして母

ちやんの手／のかゝらない様にしなさい／よ。昨今少し寒い様で／すがそちらは如何ですか。／毎日元気でゐるから安／心して下さいサヨナラ／

42 はがき (K28-0041)

昭和十九年五月二十五日(消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／  
東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

其後大分音信がない様ですが別に変わったこととはありませんか。身体の具合でも悪いのぢやない／かと心配してゐます。追々と日も迫つた事ですし決／して無理せぬ様御願いたします。小生は病氣も／せず至つて元気故御安心下さい。それから靴刷／子(刷毛カ)をどんな形のもよいから大至急頼みます。／毎日好天気が続きますが室内はまだ何となく／寒い様に感ぜられます。会社の方から何か／便りでもありましたか。子供達や桑山に宜敷。／爪切りを落したのでしたので買つておいて下さい。／

43 封書 (K28-0099)

昭和十九年五月二十五日(消印)

福島県若松市／東部第二四部隊／小林直隊／山田春之介様／  
広島県神石郡／油木町山田津多／

長らくの無沙汰申上ておりました／度々お葉書頂だきお元気で／軍務におはげみの由にて安心／致しております／子供達に絵葉書のお便を頂だ／いてとても喜こ

んでおりました／横浜より母上様十三日にいらつ／しやいまして明日(二十六日)か／明後日あたりお帰りになる様／言つてらつしやいます／一昨日は母上、子供達三代子等と／種畜場へお弁当をもつてまひ／りました見わたすかぎり／みどりの山で顔までみどりに／そまるかと思はれ様でございました／この間まで見へてた中国山脈の／頂の雪もきへてはるかに青／くかすみ雪深い油木もいよ／初夏の気分でございます／子供達は毎日元気で遊んでおり／ます近所の子供達がトンボ取り／をはじめたので健も二郎ちゃんも／昨日はアミを買つて竹につけ／健等お友達と一日中トンボ取／り内にはみませんでした／大分上手になつたらしくつて／六・七匹紙袋へ入れて口をく／り／とても大切にして昨夜はまくら／元へおいてねてみました／二郎ちゃん桑山へのお用がととも／上手に出来る様になつて毎朝(尾カ)越る／とさげかごをもつて桑山へお漬物／をとりに行くのを自分の仕事に／きめて一日もかゝさないで行つております／「ベッタラ漬頂戴」と言つて行くそうで／すがとてもかわいらしいと泰三が／言つておりました／お申越のふるしき等とりそろ／へているのですが煙草を入れて差上／たいと思ひましてまだよう小包に／しないでおります。一・二日内に送る／つもりでおりますからおまち下さい／ませもし煙草がおそくなる様／でしたら煙草だけ別便に致し／ます／どうぞくれ／も体に気をつけて／軍務におはげみ下さいませ／かしこ／五月二十五日／津多／春之介様／

44 はがき (K28-0042)

昭和十九年五月二十九日(消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／  
東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

五月も終りに近づきました。新緑の候もそろ／暑くなり麦の穂も大分伸びて油木も一年中尤／もい／時候でせう。子供達は相変わらず元気で／飛び廻つて遊んでゐる事と思ひます。横浜の／母上はもう御出になつた事でせう。小生は益々／元氣旺盛故御安心下さい。桑山には別に変／つた事はありませんか。子供達も元氣ですか／出来る丈御弁当持で種畜場当りに遊びに／連れて行くのが健康のためにはい／でせう。／何卒御身体御自愛の程祈ります／

45 はがき (K28-0043)

昭和十九年六月二日(消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／  
東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

御手紙並に小包有難う。横浜の母上御来油の由／さぞかし色々ものが珍らしかつた事と想像してゐま／す。ちりぢりになつて淋しい思ひをしてゐると思ふと／誠に御氣の毒であり早く撫順につれていつて上げた／いものです。瑞穂、明子から便りがありますか。風／呂敷も禪もあれで結構です。健が毎日トンボつり／に行つてゐるさうだが如何にも田舎の子供らしくなり／のんびりした風景が浮んで来ます。二郎ちゃんも／お使ひが出来る様になつたとの事大分大きくなつた／

事と思ひます。種畜場へお弁当を持って遊びに／行き、大いに面白かつたと思つて遙に想像してゐます。／

46 はがき (K28-0044)

昭和十九年六月二日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

母上二十五六日頃御帰りの由もう横浜についてゐ／られる頃でせう。油木の新緑にはきつと喜んで／帰つたと思ひます。子供達も幸ひ元気で飛／び廻つてゐる由何より喜んでゐます。小生毎日動／く事はないが頭と手と鉛筆を百％働かせて頑／張つてゐます。何卒御安心下さい。徳山の叔父／さんよりお便りを頂戴いたしました。そちらは／別に困る様な事はありませんか。会社の方から／何か来てゐますか。御自愛を切に祈ります。／

47 はがき (K28-0045)

昭和十九年六月二日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田健之介様／二郎様／

東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

健ちゃん、二郎ちゃん／画を送つてくれて有難う。とても近頃上手に／なりましたね。軍艦や自動車や汽車の絵は／国民学校の生徒さんより上手に出来てゐるので／とても嬉しかったです。毎日トンボとりに行つて／ゐるさうですが大分上手になつた様だと母ちゃん／から便りがありました。二郎ちゃんも毎朝お使／ひし

て手助けしてゐるさうですが二人共とてもお／惻憐なので喜んでゐます。又絵葉書を送ります／

48 はがき (K28-0046)

昭和十九年六月六日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

先日御送付の新聞有難うございました。ゆつくり／隅々迄目を通しました。久振りに地方の事情に接／し懐しく思ひました。今日の日曜は雨です。そろ／梅雨が近づいて来ましたからこれからは雨の降る日が／多いでせう。油木も田植で忙しくなるでせう。子供／達には出来る丈田舎の事情を見せておいて下さい。／小生元氣故御安心下さい。母上はもう御帰りに／なりましたか。身体の方には別に異常ありません／か精々御自愛を祈ります。／

49 はがき (K28-0047)

昭和十九年六月十一日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

東部第二四部隊小林直隊／山田春之介／

先日御送付の小包正に受取りました。早速刷／毛をお送り下され有難うございました。大変手／数をかけて済みませんでした。愈夏も近づき／日を追ふて暑くなつて来ます。当地は盆地故特／に暑い事です。そちらは別に変りありませ／んか。小生元氣にて御奉公いたしてゐます故御／安心下さい。毎日朝から晩迄手が

動かなくなる／迄猛勉強です。而し病氣もせずゐるのは何／よりです。耕ちゃんの所へ便りを出しておきました。何卒御身体御自愛の程祈ります。／

50 はがき (K28-0050)

昭和十九年七月四日 (消印)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

大阪市此花区梅町三一一／日満倉庫内／山田春之介／

昨日無事着阪しました。門田では大変御馳走になり／叔母さんが雨中に拘らず駅迄見送りして下さいました。／御弁当など迷惑をかけたから其方から礼状を出して／おきなさい。汽車は一時間延着したので会社へついた／のは四時過でした。奥原さんのめた社宅を占領する事／になるでせうがまだ分らぬ。会社も近頃仲々うるさく／て自由が出来ぬ。まだ出産の通知がないが七日の名／付けの時には帰宅出来る筈故日が分つたら電報／で知らして貰ひたい。まだ仕事も極らぬ故今の中な／ら出易いから。万事帰宅してから詳しい話を／するが思つたより以上の不自由な生活です。／

51 封書 (K28-0084)

昭和十九年七月十三日 (消印)

広島県神石郡／油木町／山田津多様／

横浜市中区山手町／二六七山成様方／山田春之介／

あわたゞしい中に忽々として出発し漸く横浜迄来てホツ／トいたしました。あの日桑山の皆様方徹夜でお弁当の用／意や出発諸準備をして下され、身に沁みて有

難く思つてゐます。皆その為に小生出発後はがつかりして床につかれ／る事なきやと心配してゐます。殊に母上様に於いてお産の／お疲れもある事だし大いに心配してゐます。三代子さんにも／お疲れの出ない様祈つてゐます。七時の自動車は高蓋で／事故のため一時間許り待合せましたが十時半迄には無時／福山につきました。丁度十時四十六分発東京行があつた／のでそれに乗込みました。泰三氏にはわざわざ駅まで来て戴いたがゆつくり話も出来ずアツ気なく別れてしまひ／残念でした。御厚意に対しては貴方から宜敷お返へ／下さい。／大阪には五時半に着き直に東京行22時30分の急行券／を臨時に発行して貰ひ、それから社宅に行きました。丁度／川西君宿直なりしたため万事都合にて小生の荷物は荷／造りして送つて貰ふ様依頼しておきました。荷物とて何も／なく、トランク一個、傘一本、其他夏ズボンと靴（ズック）、お茶の缶／を一所にしたものの三個にて、書籍は七冊許りあります。／川西氏が読んでから逐次送ると言つてゐました。／三代子さんの念の入つたお弁当はともおいしくてほんとに／感謝しました。あれ丈の御馳走を喰べたからもう思ひ残／す事はありません。夕食のお弁当を喰べてから風呂に入り九時前に会社を出発、監視一名が駅迄荷物を持つて／送つて来ました。大久保氏も丁度宿直の番で居合せたので／丁度都合にて小生の応召は直に統制会社及び日満本社／に通知したとの事でした。／汽車は門司発でしたが座席はとれました。前晩の疲れで／少し眠られました。車中はそれ程暑くない朝のお弁当も一寸／もいたんで居らずすつかり平げ

ました。折は勿体ないので／三ツとも山成に持参次回油木に帰る場合迄とつておいて／貰ふ事とし、お箸も丁度軍隊のと同じなので二繕とも持つて行きます。横浜には十時に着きました。山成の皆様には／皆元気でした。午後東京に出て日満の本社に参りました／丁度大阪の近藤所長が上京中だったので都合でした。夕／食を本社の半田、下村、外二名及近藤氏と共にレインボー・グリル／にて酒なしにて喰べました。それより上野駅に到り十二日／の二〇時発仙台行の指定券を貰ひ山成へ帰つたら七時過ぎました／丁度全三さんが関西出張より帰られた許りにて吉浜よりサワ／ラを持つて帰つたからとてそれを焼いて戴きビールを一本／御馳走になりました。丁度風呂があつたので都合でした。／山成より御饞別として参拾円戴きました。母上も幸ひ御元気／でした。十一日の晩は山成に止り十二日の午后出発午後八／時上野発の列車にて仙台に参ります。横浜で少し許りユツクリ／出来たので体が助りました。暑の故か胃の具合頗る悪く食／欲不振です。横浜で頭を奇麗に刈りましたから御安心下さい。／其方に便箋と封筒がないので当地で買ひ求めたのをお送／りします便箋二冊と巻紙二本と封筒少々及開きんシャツを／一所にお送りします。仙台へは大阪から持つて来たクレープシャツ／を着て行きます。／丁度お前様のお産の後の事としてこのゴタゴタの為産後の経過が悪くなりはいないか、その為お乳の出ない様なことになりは／しないかと心配許りしてゐます。産後ユツクリ静養も出来ずほん／とに気の毒に思つてゐます。後腹が痛むとて困つてゐた様で／すが、その後の

様子はどんなでせうか。出血は少くなつたで／せうか。小生の部隊所属決定次第通知するから直ぐ其の后／の経過お報せ下さい。／偶に油木に帰つても難しい顔許りしてゆつくりと落着いた／気分では話も出来なかつたのは残念にも思ひ、御気の毒にも思／つてゐます。小生も除隊後何となく心の落着きもなく且／何と云ふか一抹の物淋しき、物足りなさを感じて少しく／憂うつ症に掛つてゐた様です。こんな事なら永い休暇の間を／モット朗に心残なくやつておけばよかつたと悔まれても／今は詮なき事と思つてゐます。唯お前を不愉快な思ひを／さした事はほんとに気の毒でした。／子供達は元気ですか。二郎ちゃんのおできが気になります。／早くよくなればとそれのみ念じてゐます。／唯一人居るとわけもなく心配な事許り思はれ、一家の団らんを／思ふにつけ言ひ難き淋しさを覚えるのは誰しもある事だと／思はれますがとりわけ淋しがり屋の小生故こうなると一層早／く入隊が済めば、と思ひます。／和子や健、二郎とお前が揃つてて写真を写したら成る可く／早く送つて下さい。子供達に病気をさせぬ様気をつけて下／さい。／大阪を出発する時八幡様の御守りを忘れ現在お守りは一ツも／ないので心細い限りです。早速八幡様の御守をお送り下さい。／うっかりして大切なものを忘れたので気になります。／亦万年筆が使へなくなつたので新しいのを横浜で買ひました。／小生の大阪行や出征で色々費用をかけたので困りはしないか／大分の出費なので何だか心細くなつてしまひます。／会社の給与は六ヶ月経過すると七割しか異れなくなるから／月200円前後になる故その積り

てみて下さい。それから和子の／出生せる事を川西氏に伝えて家族手当増額の手続をして／貰ひなさい。小生よりも葉書は出しておきますが／軍隊に入ればもう何も書けないから今の中に書いてみます／今后金の必要なる時は（恐らく要らないと思ふが）剃刀の／刃を送れ（一枚を拾円とす）と云ふ風な事といたします。／煙草の空箱はトランクの中の箱の中に入つてゐます。便ある／時にお送り下さい。亦、刻み煙草及短いキセルをお送り下さい。／これも持つて行くのを忘れました。／会社の方から石齧を135個送るからその積りで代金は／月給の中から差引いてくれる様に頼んでおきました。／これは水によく解してから使ふのですから間違ひのない様に／出掛ける時、米田さんと佐藤からそれぞれ餞別を貰ひまし／たが軍隊からはそのお礼状は出す事が出来ぬ為宜敷お／話しおき下さい。当方より出す必要あらば挨拶状は出し／ます故お便り下さい。尚毛利も見送りに来てゐました。／いろいろ書きたい事があり乍ら何を書いたらゝか書く段に／なると迷つてしまひます。唯皆丈夫で元気でゐてくれ、ば／と祈る許りです。／和子の名付けの日が小生の入隊日です。因縁のある子ですね。／令状を魚崎の方へ送つた由若松の役所より電報がありまし／たから恐らく油木へ回送されるでせう。これは部隊へ直送方／泰三氏に頼んでおきました。／仙台へついたら亦様子を書きませう。手紙を書く事が何／より楽しみです。／身体を充分気をつけて決して無理せぬ様お祈りしてゐます。／桑山にいろ／＼立替して貰つたから精算しておいて下さい。／

52 はがき (K28-0053)

昭和十九年七月十四日（消印）

広島県神石郡油木町／山田津多様／

仙台市東五番丁／鹿島屋旅館にて／山田春之介／

十二日夜二〇時上野発の列車にて仙台に参りました。／汽車は相変わらず混んでゐて応召兵で満員でした。仙台／着五時頃でした。福島組の宿屋に行きましたら二四部隊の戦／友達多数来合せて居てお互に再会を喜びました。小生も非／常に心強く思ひました。同じ班の戦友は三人でした。三〇部隊／は師団の通信部隊にて若松と少しも変わりません。山成では朝／昼の弁当を多量に造つて貰ひました。充分でした小生齒が相／交らず痛くて腫れもひかず之に加へて胃が痛くて困つた事／になりました。午後は映画館に行きエノケンの三尺佐吾平を／見て来ましたが少しも面白く思ひませんでした。愈々最後の／日をこゝで送ります。仙台は仲々いゝ町です。市電も通／つてゐます。丁度岡山位の程度です。／

53 はがき (K28-0052)

昭和十九年七月十四日（消印）

広島県神石郡油木町／山田津多様／

仙台市東五番丁／カシマ屋旅館ニテ／山田春之介／

仙台は雨です夕方は亦映画でも見に行／かうかと思つてゐます。令状は届きましたか／直三〇部隊の方へ御送り願ひます。／其後経過は如何ですか。心配してゐ

ます。／煙草が非常に不足してゐますから部隊／名報知次第お送り下さい。／産後の事故決して無理せぬ様／子供達は元気ですか／

54 はがき (K28-0054)

昭和十九年七月十九日（消印）

広島県神石郡油木町／山田津多様／

仙台東部第三〇部隊／山田春之介／

暑熱愈厳しき折柄其後如何ですか／其後の経過は順調に進みもう起きられる頃だと／思ひますが。和子の名付も小生不在乍ら盛に賑か／に出来た事でせう。小生は幸ひに元気でゐます／御安心下さい。健や二郎ちゃんはどうしてゐるか／二郎ちゃんには健の様に神経衰弱にさせない様淋しがらせぬ様、願ひます。桑山の皆／様には大変御世話になりました。其方から／宜敷御伝へ下さい。何れ亦後便にて。／書面当分の見合せ下さい。／

55 はがき (K28-0055)

昭和二十年三月十日

広島県神石郡油木町／山田津多様／

南支那派遣軍波第八一一部隊／さ一山田春之介／

大分永らく御無沙汰しました。其後皆変りはありませ／んか。其方から送つてくれた小包二ツ共無事受取りました／から御安心下さい眼鏡は丁度宜く合つて具合が宜敷／剃刀も大いに役立つてゐます。又内地の御茶も中支で美味／しく戴きました。心尽しの品々も大い

に役立つてゐます。／又後からの煙草入、剃刀の刃も有難う。雑誌、週報も面白く読みました。■は寒くて閉口しましたが当地は流石南方とて／温く丁度内地の十月頃の気候です。健や二郎は元気ですか／健も今年は学校ですが万事落度のない様に充分注意／してやつて下さい。幸ひ小生は元気ですから御安心下さい。／油木のお祭の盛だつた事や子供達の喜んだ様子など／遙に色々と想像して見ました。随分と忙しかつた様ですね／

56 はがき (K28-0055)

昭和二十年三月十日

広島県神石郡油木町／山田津多様／

南支派遣軍波第八一一部隊／さ一山田春之介／

南支も冬は矢張り寒いけれども寒さの程度は四月／か十月頃の様で至極凌ぎいゝです。油木は今頃は／とても寒くてこたつから出るのが仲々勇気が要るで／せう。健、二郎ちゃんも初めての事とて風邪をひきや／しませんか。それから先達送つてくれた眼鏡の枠の／つるが折れたので困つてゐます。便ある時送つて下さい。／小生■にゐる時鼻の手術をしました。お蔭で氣／分は大変いゝ様です。和子ちゃん元気ですか。大きく／なつたでせう。方々に御無沙汰許りしてゐますが会／社の方へ部隊名を知らしておいて下さい。桑山の方へ／は暇を見て通信いたしますから皆様に宜敷伝／へて下さい。身体に氣をつけて下さい。／

57 はがき (K28-0057)

昭和二十年五月十五日

広島県神石郡油木町／山田津多様／

南支派遣軍波第八一一部隊／さ一山田春之介／

其後皆お変わりございませんか。当地は此二三日来より／雨が降りとても寒くなりました。而し中支の寒さと比／較すれば問題になりません。御地は如何ですか。永い間／便りに接しないので様子が一向に分りませんが皆元気で／ゐるのでせう。健や二郎ちゃんも病氣もしないで元気で遊んで／ゐる事と考へてゐます。和子ちゃんの発育は如何ですか。／南支も三月になれば暑くなる様に聞いてゐます。小生の如き／寒がり屋には結構な土地です。剃刀の刃は矢張り当地／でも相当に高価故序手の際に送つて下さい。内地の便りを／しばらく聞かないので心配です。桑山の皆様にはお変りありませんか。寒い時ですから決して無理をしない様／にお願ひします。母上はどうしてゐられるでせうか。／

58 はがき (K28-0048)

(昭和十九年五月)

皆元氣の事と思ひます。色々面倒をかけ申訳も／ない次第です。油木母上御元氣ですか。横浜の母上父上／の百ヶ日で京都へ発たれた由福山へも行くらしいです。／御恵送の缶入りのおいり何より嬉しく戦友と語らい乍／らやつてゐます。あんなに念入りのものでなくていゝから亦／次のを案にしてみます。次回は袋か

紙箱で良缶は当方／にあるから心配なく。あんなものが何よりで氣ついたものを／宜敷く案にしてみます。新聞は週三回位送つて下さい。／差支へありません。小／

59 はがき (K28-0071)

(昭和十九年)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

中支派遣軍第二三一九部隊／長谷川隊／山田春之介／

暑熱愈々厳しき折柄其後皆元氣／ですか。自分も出発以来何の病氣もする／事なく元氣で居ます。何卒御安心下／さい。和子其の後生立如何ですか。／健ちゃん、二郎ちゃんも毎日真黒にな／つて元氣で遊んで居る事と想像し／てゐます。桑山の皆様に宜敷／

60 はがき (K28-0060)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田健之介様／

中支派遣軍第二三一九／部隊長谷川隊／山田春之介／

健ちゃん／油木は毎日暑いでせう。／もうキウリも南瓜もキビ／も出来たでせうね／毎日相変らず外で遊／んでゐるでせう。お母さん／に心配をかけぬ様余り遠／い所まで遊びに出掛けぬ／様にしなさいね。／時々便りを下さいよ／

61 はがき (K28-0058)

(昭和十九年)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊／山田春之介／  
日の経つのは早いものでもう一ヶ月以上にもなりまし  
た／其の後子供達は別に病氣もせず毎日元気で遊んで  
／ゐる事と思ひます。自分の手入した畠にはもう胡瓜  
や豆が／出来てゐるでせうし、きびも子供達のおやつ  
になつて毎日／喰べて居る様子が目に浮びます。油木  
の方はもう涼しくなりましたでせう。和子は其後ど  
うですか。小生元氣なり御安心／の程を。安全剃刀の  
刃（両刃）が欠亡したので至急御送り／下さい。例の  
ではなくてほんもの故間違なく。剃刀の刃／は当地で  
は仲々高価なので貴地より御送り願ひ度こ／れは絶え  
ず氣をつけて御送つて下さい。／亦通信をあげます。  
当地はまだ暑いです。／

62 はがき (K28-0068)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田津多様／

中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

御便り有難うございました。貴地の方は何の変わりも  
なく結構に思ひます。和子ちゃんも笑ふ様になつたと  
の／事可愛いでせう。二郎ちゃんも病氣もせず安心し  
ました。／当地は日中はまだ暑い様ですが夜になると  
とても涼しくなります。中支の氣候は内地と余り変  
りはない様／に思はれます。こちらの方の■■■■■  
■が多くなるため／か足によく豆を出来して困りま  
す。先日一寸した足の傷が／中々なほらなくて閉口し

てゐます。剃刀の刃は仲々な／いと事。岡山の方か  
ら至急送らせる様にして下さい。／如水会報も有難う。  
新聞も時々頼みます。ジャガ薯が／沢山あつて安心し  
ました。皆の健康を祈つてゐます。／

63 はがき (K28-0078)

(昭和十九年)

広島県神石郡油木町／山田健之介様／

中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／  
お変わりなく元氣ですか／自分も元氣故安心して下さい  
／何か面白い事でもあつたら／知らして下さい。又慰  
問袋や／古雑誌でもよいかから送つて／下さい。健ちや  
んの折紙も非／常に結構です。当地はまた／暑くなつ  
た様です。而し一雨／くれば涼しくなりませう／しつ  
かり今から勉強して来年／は他人に負けない様にして  
／下さい。／

64 はがき (K28-0064)

(昭和十九年)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊／山田春之介／

御手紙有難うございました。久し振りに故国の便りを  
見／てとても嬉しくくり返し／読みました。そちら  
の方は／何の変わりもなく皆元氣である由何よりと思ひ  
ます。健も／近頃とても大人らしくなつたとの事中心  
入つてゐた字も／仲々上手にてこれを見てはいろ／く  
想像してゐます。学校／へ入る前に精々予備教育をし

ておいて下さい。二郎ちゃん／も絵なんかを書かして  
みて下さい。自分の作つた野菜物も／皆の食膳に上つ  
たとは羨しい次第です。当地は雨天にて／追々涼しく  
なりました。氣候にも馴れ、食物も中国人並に、ニン  
ニクを喰べます。目下所何の変化もないから御安心下  
／さい。兄上よりの手紙は送つて下さい。また便りを  
下さい。／

65 はがき (K28-0066)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田津多様／

中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

お変わりありませんか。毎日忙しい／でせう。当地は今  
朝から雨です。／これですつと涼しくなる事です。  
／支那の道路は田舎へ出ると道は悪／いが町中は石が  
敷きつめてあつて／仲々立派です。町を走る人力車は  
／黄包車ワゴと称してゐます。日本人／の経営するお菓子  
屋さんには内地／の生菓子が沢山売つて居ります／美  
味しさうなお菓子や肉饅重／さてはふかし芋等健ちや  
ん二郎／ちゃんに喰べさしてやりたい様です／

66 はがき (K28-0067)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田津多様／

中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

お変わりございませんか。小生元氣／です。御安心下さ  
い。当地は昨／今とても涼しくなりました。／御地は

もう寒いでせう。先日の行／軍で足に豆が出来て困りました。／支那の足はほんとに歩き難い／道です。ニクを毎日喰べて／ゐる故か身体特に胃腸の調／子が至極宜しいです。■／ふと内地の空は澄み渡つてゐる／事でせう。栗や柿で食物も賑／かになつたでせう。そろ／松茸／の香が聞ける頃ですね。当地に／は恐らく茸はないでせう。／

67 はがき (K28-0072)  
(昭和十九年)

広島県神石郡油木町／山田津多様／  
中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

当地も大分涼しくなりました。小生元気です／皆変わりはありませんか。一向便りがないので／どうしたのか。今後部隊名によく気をつけて／着信と同時に返事を書く様にして下さい。／健、二郎ちゃんはどうしてゐる？内地の便りが／知りたい。新聞を時々お送り下さい。それから／古雑誌、古小説類何でもよいから直ぐ送／る様。何事も敏速にやらねば間に合はぬ。／剃刀の刃を頼むよ。／

68 はがき (K28-0083)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田津多様／  
中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

貴地はもう涼しいでせう。月もさぞ／かしさえてゐるでせう。軍歌演習／に歌ふ「あゝあの顔であの声で、

手／柄頼むと妻や子が千切れる程に／振つた旗遠い雲間にまた浮ぶ」／「あゝ堂々の輸送船さらば祖国よ榮／あれ遙におがむ宮城の空に誓つた／この決意」は遙に故国の空を思ひ／出させます。お彼岸には父上の／墓参を母上されたでせうかね。／お祭も近くなつて子供達は楽に／してゐるでせう。どつさりいろ／／のを買つてやつて下さい。／

69 はがき (K28-0073)  
(昭和十九年)

広島県神石郡油木町／山田健之介様／山田二郎様／  
中支派遣矛第二三一九部隊長谷川隊／山田春之介／

健ちゃん二郎ちゃん其後お変わりありませんか。自分も元氣／でみますから御安心下さい。健ちゃんも来年は学校へ行くから字／を練習しなさい。二郎ちゃんはお母さんの御手伝ひをよくしなさい。お祭りももうぢき来るので楽しいでせう。栗も沢山出来てゐる／でせうね。去年一所に栗拾ひに行つた頃を思ひ出してゐます。芋も／出来ておいしさうなたきませの御飯を喰べてゐるのが目に見／える様です。今年柿はどうか知らん。お母さんの便りに依る／と二人ともとてもお困りになつたさうですね。二人とも時々お／便り下さい。油木の山や谷の景色は一段とさえて秋を充分／味つて下さい。おやつに困りはしないかね。でも馬鈴薯があ／るさうだからい／でせう。お祭りの模様を知らして下さい。／

70 はがき (K28-0083)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田健之介様／  
中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

秋のお祭りも近づいて嬉しでせう。／大陸にも秋が来ました。暁方は蒲団／をかけないと寒い位です。当地の山に／は木がないので秋の変化は見られませぬ。支那の町はとも賑かで露店／の支那そばや夜通しやつてゐます／内地で見られぬ珍しい品々、お菓子／やまん重その他メリケン粉で作つた／揚物など健ちゃんにあげたい様で／す。中支は一般に物価の高い所です／そちらではもうキビを喰べましたか／今は何が出来てゐますか。柿は今年／は出来が悪いでせう。葉書を至急五十／枚位送つて下さい。会社の方へは自分から／きいておくが継続するのではないかと思ふ。／

71 はがき (K28-0059)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田二郎様／  
中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

二郎ちゃん、／元気ですか。オデキはな／ほりましたか。／お祭りが近づきましたね。／沢山おもちやを買つて／貰ひなさいよ。／何を買つて貰ふのか知／らして下さいね。／和子ちゃんは元気ですか。／サヨナラ

72 はがき (K28-0075)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田二郎様／山田健之介様  
中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

健ちやん、お便り有難う。字が／とても上手になりま  
したね。これか／らもつと沢山書いて送つて下さい。  
／お祭りが近づいてうれしうせう。／二郎ちやんは  
とてもお惻恰にな／つたそうで大変うれしく思つて／  
ゐます。しつかりお手伝して下／さい。和子ちやんの  
お守りが出来／ますか。こちらはもう涼しくなり／ま  
した。油木はもう寒でせう。支那／の町は仲々賑か  
でもありますが／高いです。剃刀の両刃を沢山送つ  
／て下さい。またお便り下さいよ。／

73 はがき (K28-0080)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田健之介様

中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

元気ですか。毎日どうし／てゐますか。／こちらはそ  
ろ／涼しい／ですよ。／油木の御祭りももう直／ぐ  
で楽しみでせう。／沢山頑具(頑カ)を買つて貰／ひなさい。  
／そして便りを下さい。／サヨナラ／

74 はがき (K28-0065)

(昭和十九年)

広島県神石郡油木町／山田津多子様

中支派遣矛第二三一九部隊長谷川隊／山田春之介／

御便り有難うございました。便りが来る度にどんな事

が書／いてあるかと封を切るのほ／とても楽です。どん  
な瑣細(瑣カ)な事でも／よいから故国の便程元気付けるもの  
はないのだから忙しいだ／ろうが時々寄越して下さ  
い。わ子ちやんもだん／可愛くなつた事／と遙に想  
像してゐます。栗拾ひには健や二郎ちやんがどんなに  
／喜んだ事でせう。自分は又足を痛めて困つてゐます。  
当地へ来て／から次から／と足を悪くするのでほん  
とに閉口してゐます。先達／は東京の日劇の(舞台)  
が慰問に来ましたので見物に行きま／した。昔の事が  
思ひ出され懐しく又観劇に楽しい時間を費しました。  
／当地にも時々慰問映画が来ます。又市内には映画館  
もあります。／稲もすつかり実つて今は取入れをする  
許りです。丁度内地の／秋の様子と少しも変わりません。  
空は飽迄澄み渡つてゐます。／剃刀の刃を至急送つて  
下さい。／

75 はがき (K28-0082)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田健之介様

中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

健ちやん字が上手になつた／ね。とても上手です。毎  
日／勉強してゐるのですか。大抵の／字は読めるでせ  
うね。片仮名／で書いて上げたいが当地は平／仮名許  
り使ふ事になつてゐま／すからお母さんに読んで貰ひ  
／なさい。先日栗拾ひに行つた／さうですが面白かつ  
たでせう。／さぞおいしい栗だつたでせう。／お手伝

が出来て何より嬉し／く思ひます。又書いて送つて下  
さい。／

76 はがき (K28-0079)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田二郎様

中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

元気で毎日遊んでゐるさうで／何より結構です。此間  
は栗拾／ひに行つたさうで面白かつたでせう／栗の御  
飯でも喰べましたか。／二郎ちやんはまだ絵が書けま  
／せんかお兄ちやんに教つて少し／づゝ書く練習をし  
なさい。／お母さんの御手伝ひもよく出来／るさう  
で安心いたしました。／小生は至つて元気でまだ病氣  
／はした事ありません御安心下／さい。和子ちやん  
の御守りをよくして／あげなさいよ。又御便り下さい。  
／

77 はがき (K28-0081)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田二郎様

中支派遣矛第二三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

其後元気ですか。身体の／おできもなほつてよかつた  
ね／毎日外でお友達と遊んでゐ／ますか。お母さんの  
御手伝も／よく出来て嬉しく思つてゐ／ます。栗はも  
う喰べましたか。／支那にも栗があります。柿や／梨  
も売つてゐます。町には人／力車や物売が往来して  
仲々／賑かです。言葉が通じたら／さぞかし面白いだ

ろうと思ひ／ます。元気でゐて下さい。／

78 はがき (K28-0069)

(昭和十九年)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

中支派遣第三三一九部隊／長谷川隊／山田春之介／

其の後絶えて御無沙汰いたしました。皆／元気ですか。貴地の様子は如何ですか。子供／達は如何してゐるか御便り下さい。小生は元気／故御安心下さい。／桑山の皆様には御変りありませんか。／内地よりの便りは何より待遠しく思はれます。／健ちゃん二郎ちゃんの絵でも送つて下さい。／また御便りします。／

79 はがき (K28-0061)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田健之介様／

中支派遣第三三一九部隊長谷川隊／山田春之介／

御無沙汰しました／元気ですか。毎日如何／してゐますか／時々便りを下さい／待つてゐます。自分は／元気故御安心下さい／和子ちゃんは大きくなつ／たかね。／

80 はがき (K28-0062)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田二郎様／

中支派遣第三三一九部隊長谷川隊／山田春之介／

二郎ちゃん／毎日如何シテキマスカ／元気デ遊ンデキルコト／ト思ヒマス／オ母サンノオ手伝ヒガ／ヨク出来ルデセウネ／時々折紙ヲ送ツテ下セイ。／デハサヨナラ／

81 はがき (K28-0077)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田健之介様／

中支派遣第三三一九部隊／長谷川隊山田春之介／

健ちゃん／折紙送つてくれてありがた／う。とても上手に折れてゐ／ますね。それから千代紙／も有難う。あれに奇麗／な箱を送つて折紙を入れる／積りです。自分は足を痛め／てこの二週間許り困つてゐま／す。またいろ／＼と送つて下さい。／中に便りが無いのが一寸淋し／かつたね。／

82 はがき (K28-0070)

(昭和十九年)

広島県神石郡油木町／山田健之介様／

中支派遣第三三一九部隊長谷川隊／山田春之介／

此間は御手紙有難う。大変上手な立派な手紙で健／ちゃんももうこんなに大きくなつたのかと思ふと不思議な／様でもあり嬉しくもありお母さんもきつと喜んでゐるでせう。／来年からはしつかり人に負けない様にやつて下さい。毎日あ／の手紙を出しては眺めていろ／＼と想像してゐます。鶴の／折紙も部屋の飾りにする積です。もつと送つて下さい。自分／も至極元気で

足の痛みもなほり歯も胃の具合も宜い様／です。支那には日本の焼酒よりも強い焼酒があり此間日本酒／とこれを飲んで大失敗をして、戦友に迷惑をかけた。お／母さんが居たら大変おこるでせう。これからは酒は飲みません／から心配なく。おいしい餅菓子や焼芋なども売つてゐます。／

83 はがき (K28-0076)

(昭和十九年)

広島県神石郡／油木町／山田二郎様／

中支派遣第三三一九部隊長谷川隊／山田春之介／

二郎ちゃん／毎日矢張り桑山へベツタラ漬／を取りに行つてゐますか。二郎／ちゃんをよく御手伝ヒが出来るのでお母ちゃんも／も助かるでせう。こんどまた／ちがつた面白い絵葉書を／送つてあげます。タバコのお／使ひがなくなつて淋しいでせ／う。切紙細工を送つて下さい／ね。待つてゐます。／

84 はがき (K28-0074)

(昭和十九年)

広島県神石郡油木町／山田津多様／

中支派遣第七三三一部隊栗原隊／山田春之介／

其後御無沙汰いたしました。皆お変りなく元気の／事と存じます。小生も至つて元氣にて風邪もひかず頗／る調子が良い様です。当地は朝夕温度が下降します。／大夏高廊の□庇する河口の都市は流石に立派なもの／です／先達お願ひした剃刀の刃はどうなりましたか。

それから小生の／使つてゐた煙草入（鼈甲のもの）を  
至急送つて下さい。油木／の方の状況は如何。先日耕  
平少尉より手紙を貰ひました。／近ければ誠に都合が  
いゝのですがね。健ちゃん、二郎ちゃんは／毎日どう  
してゐますか。亮ちゃんの方はもう生れたでせうか。  
／川西君は未だ応召にならないのでせうかね。会社の  
方から／は別に何も云つて来ませんか。追々と寒くな  
るとあの家では／何かと不自由の事だろうと想像して  
ゐます。部隊名が變つたよ。／